

梅の礎

うめ

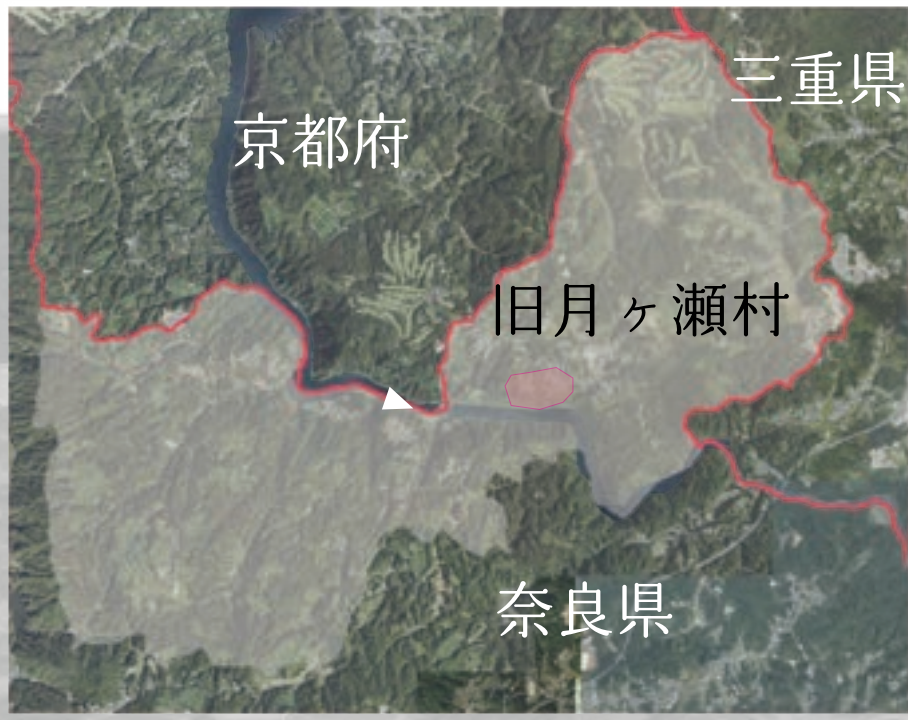
いしづえ

BAIKEI INFRASTRUCTURE

concept: 手入れされ続ける梅溪

うつろう暮らしの中で守り愛されてきた月ヶ瀬梅溪は、
「梅の礎」の挿入によって、新たな風景を創り出す。
「梅の礎」は、農を営むまちの風景から抽出された素材によって構成され、
多様な人々が手入れを継続していく契機となることで、まちの大きな庭へと育っていく。

名勝月ヶ瀬梅林



月ヶ瀬市街地

月ヶ瀬梅林

長引

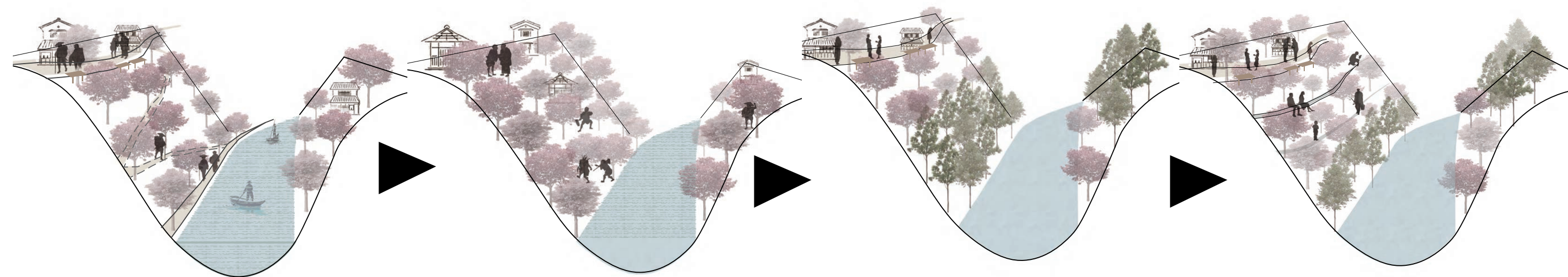
月瀬橋

嵩

名張川

月瀬

月ヶ瀬梅溪



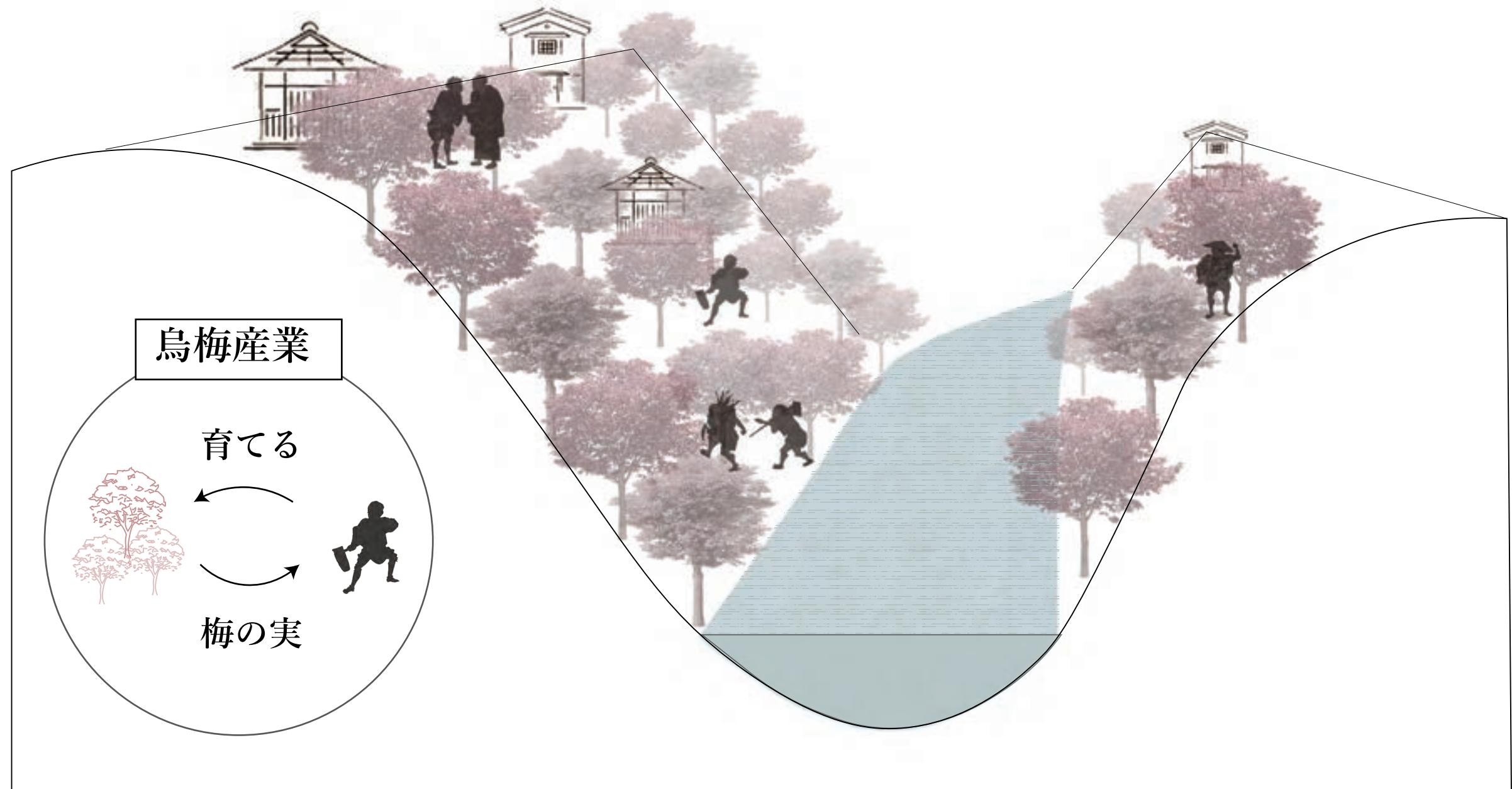
烏梅生産期

観光発展期

現在

提案後

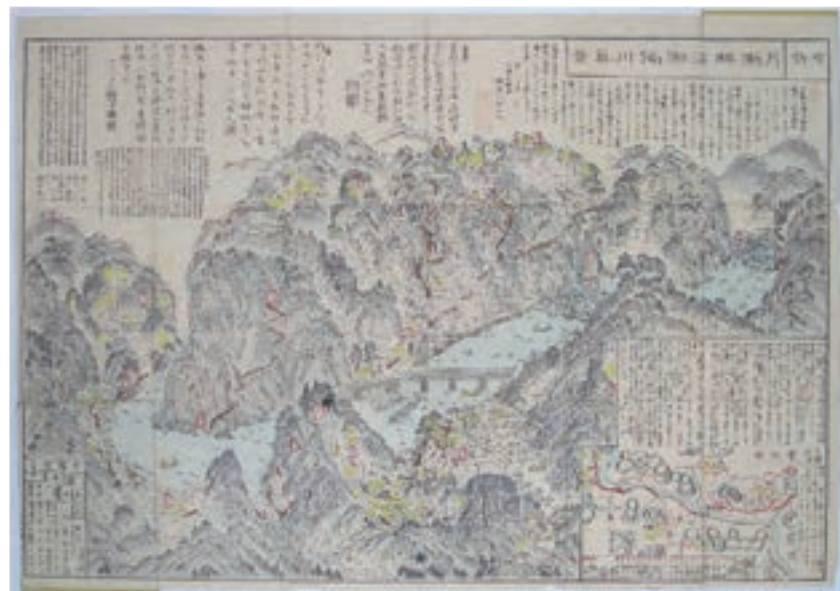
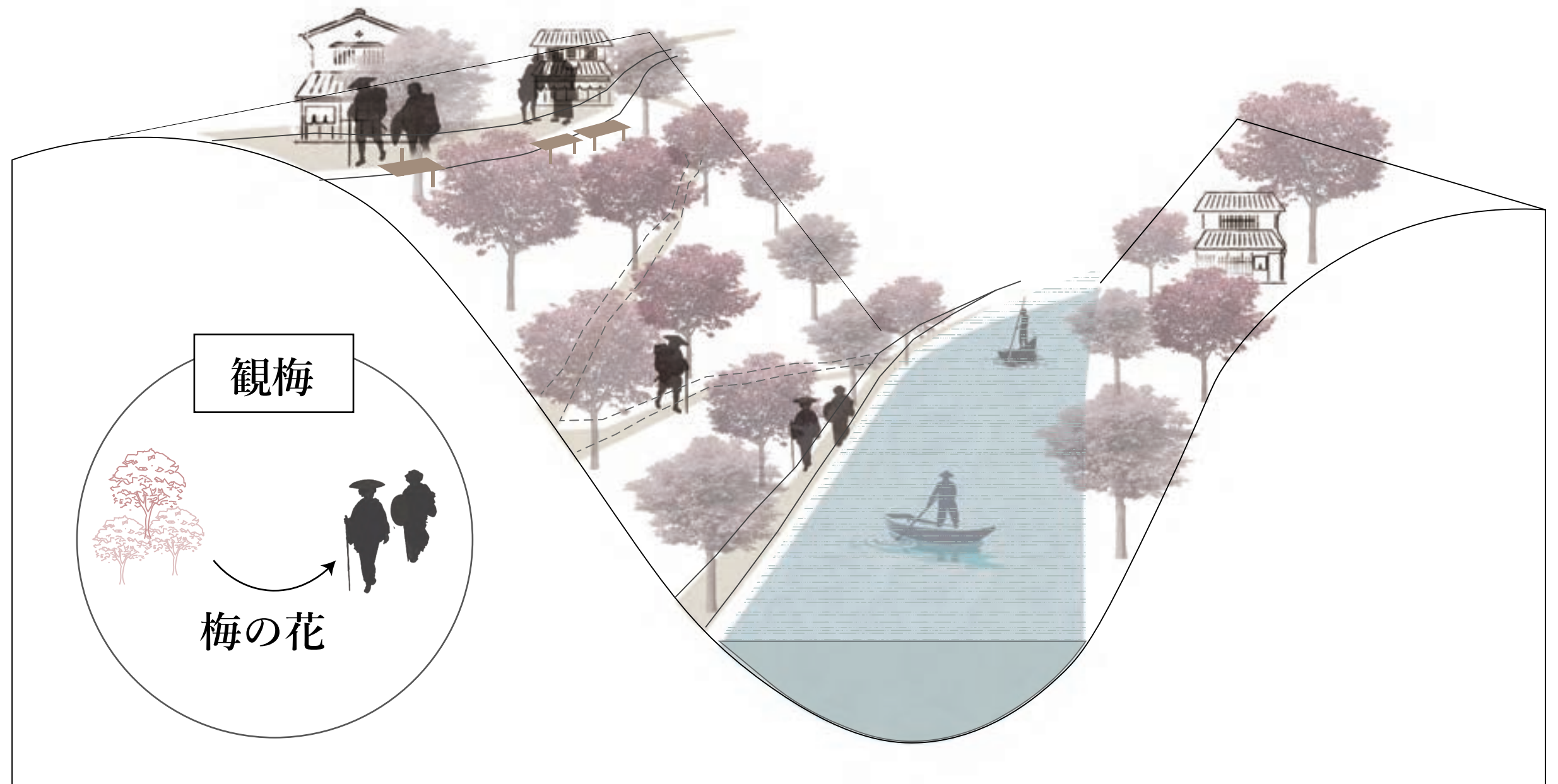
①烏梅産業から溪谷に梅畑が広がる



※烏梅とは、梅の実を
煙でいぶしたもので、
古くから薬や伝統的な
紅花染めの媒染剤とし
て活用されてきた。



②花見による観光地化と烏梅産業の衰退



(左)「月ヶ瀬梅溪十六勝地真景図」岡本八谷編

(右)

月ヶ瀬梅溪

③愛着によって守られてきた梅溪



月ヶ瀬保勝会活動の様子

(左) 梅ひろい

(右) 剪定教室

③守られてきた梅溪の場の価値

〔厚みのある風景〕



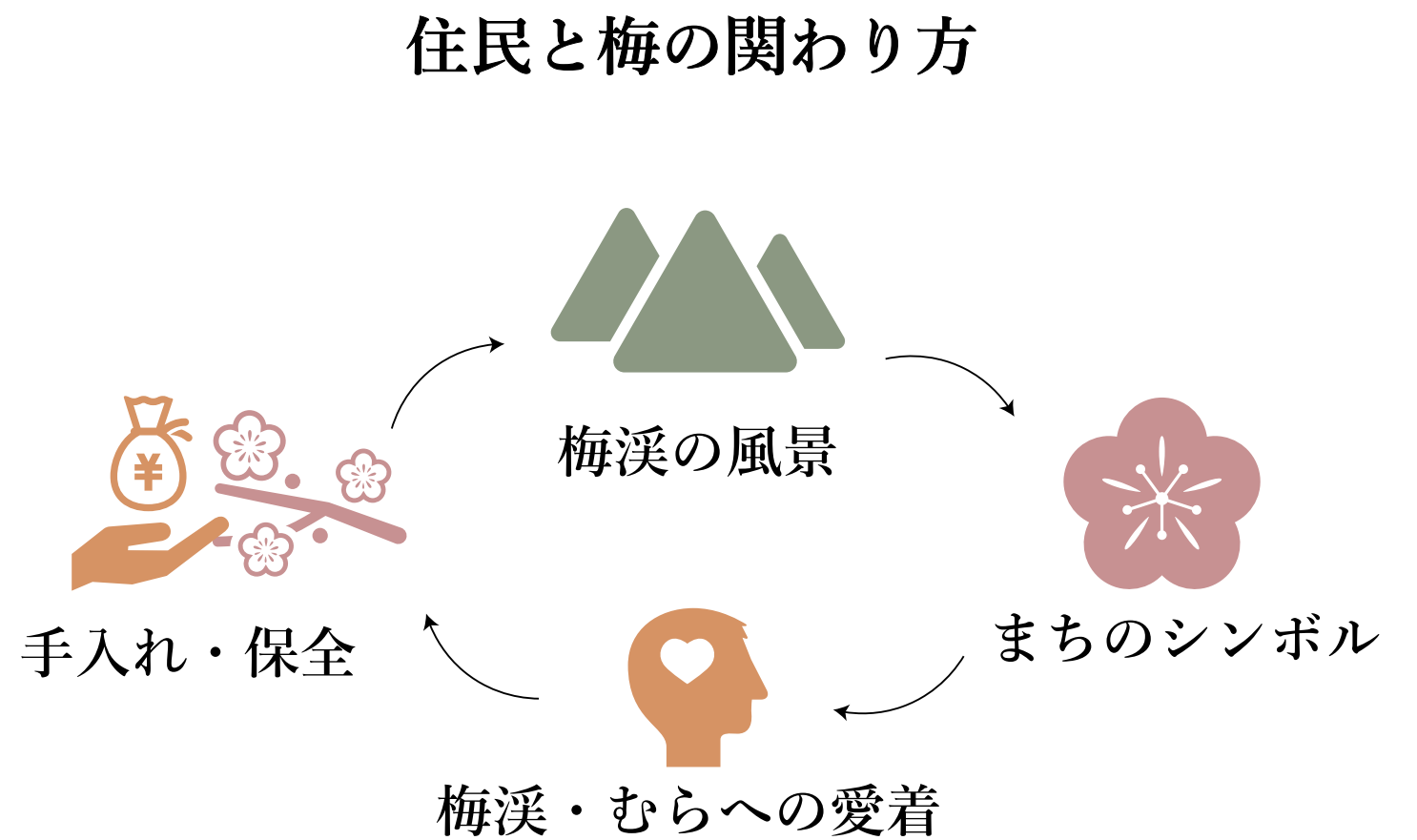
地形と梅による景色



暮らしに触れる体験

+

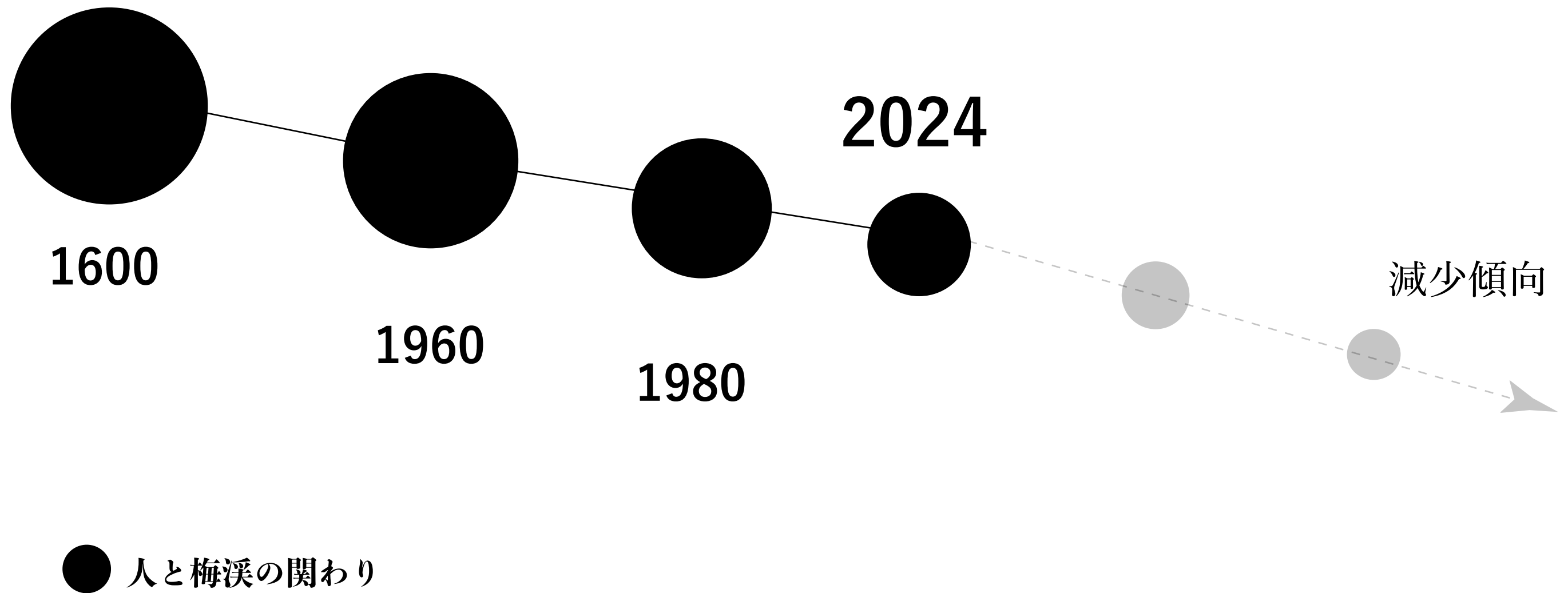
〔住民による下支え〕



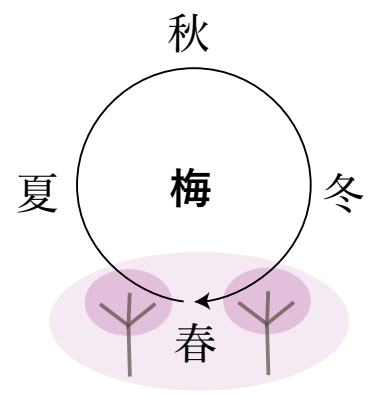
「梅のむら」という住民の共通認識により保全される梅溪

月ヶ瀬梅溪

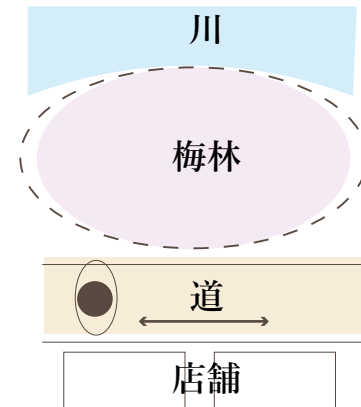
④継続困難な現在の梅溪



要因 1 限定的な観光

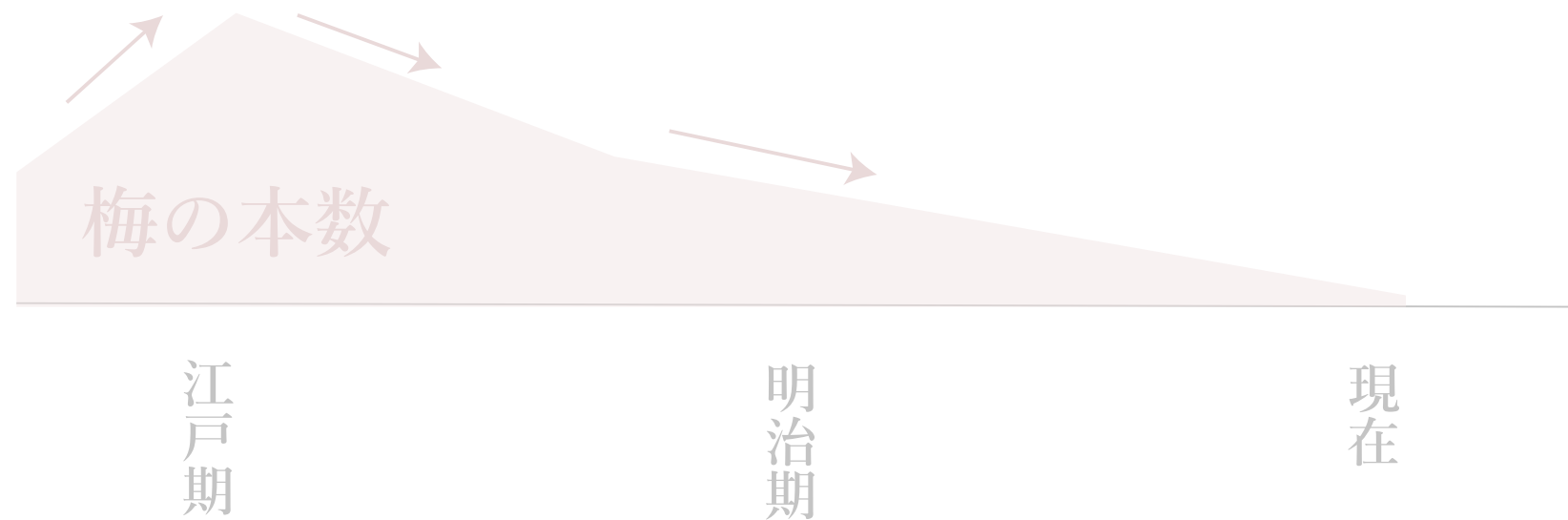


季節限定のむらの盛り上がり



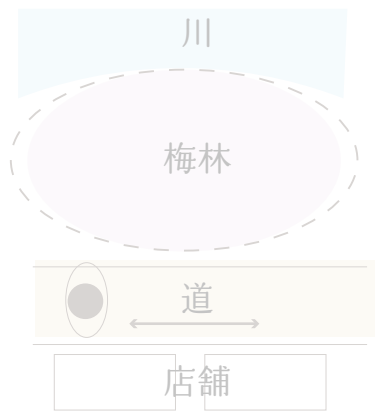
限定された動線からみる梅溪

要因 2 梅の更新不足



増える古木

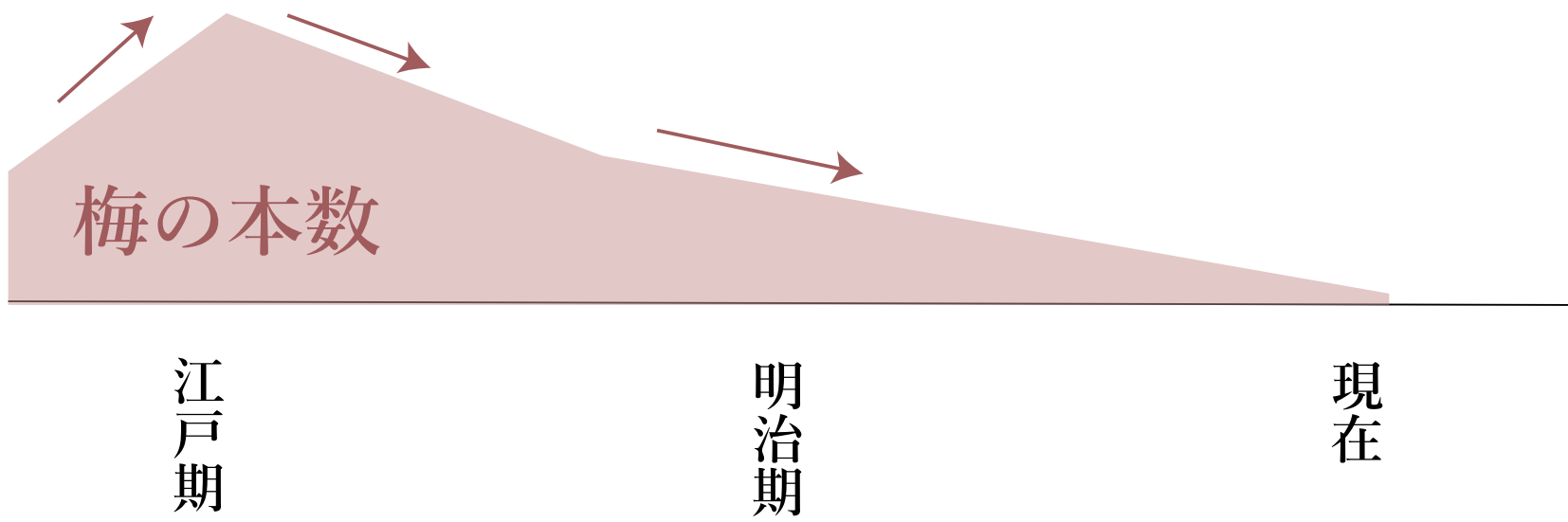
要因 1 限定的な観光



季節限定のむらの盛り上がり

限定された動線からみる梅溪

要因 2 梅の更新不足





古木の増加

⑤風景を**継承・発展**させる「梅の礎」

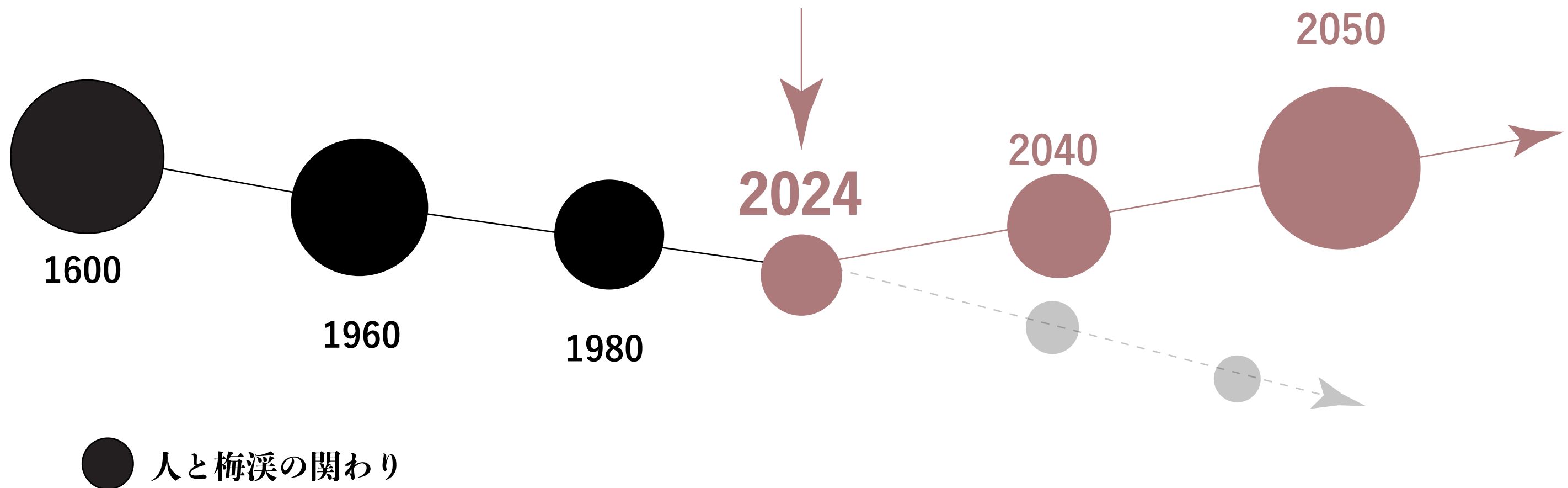


⑤風景を継承・発展させる「梅の礎」

梅の礎

BAIKEI INFRASTRUCTURE

- ①梅と人との接点を増加すること
- ②更新により梅の風景を継承すること



An aerial illustration of a park or campus. In the upper left, there are several modern, low-rise buildings with large windows. A winding path or road cuts through the landscape, which is filled with numerous trees, many of which are in bloom with pink and white blossoms, likely cherry blossoms. Small figures of people are scattered throughout the scene, walking along the paths. The overall style is a soft, painterly illustration.

梅の礎

BAIKEI INFRASTRUCTURE

新 梅ひろいの景

新 お花見の景

新 循環型風景づくり

梅の礎

BAIKEI INFRASTRUCTURE

■ 農のまちを構成するエレメント



グレーチングの景



収穫かごの景



トタン板の景



単管パイプの景



自作柵の景



竹林の景

1. 風景から抽出される素材

まちの庭先にある素材を抽出し設計することで**地域固有の風景と連続した空間**を創出する。

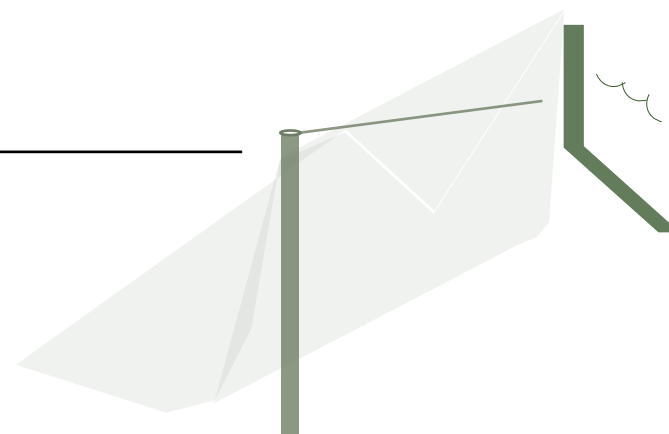
手入れしている人の空気が表出する。

2. 手入れにより更新される礎

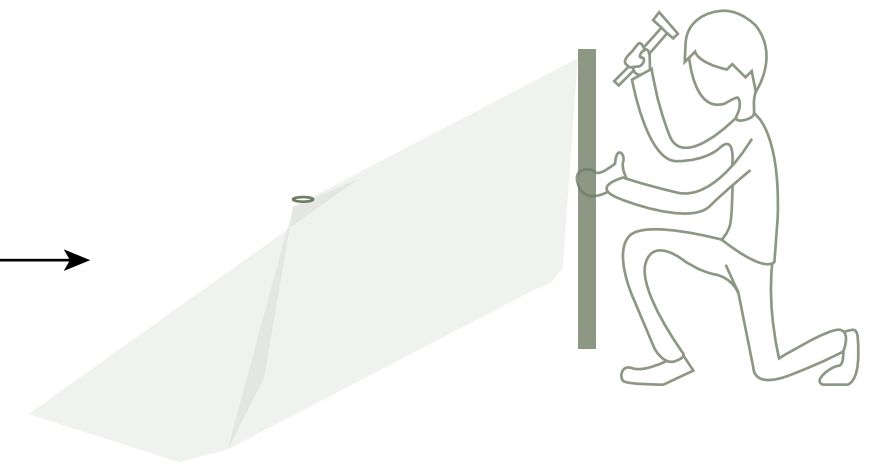
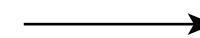
地域住民が使い慣れた資材を使うことで庭のような小さな手入れを誘発する。

まちに現れている材

簡単に調達できる材



【部材の破損】



【ちょっと直しとくかの誘発】

An aerial illustration of a park or urban landscape. It features several modern, low-rise buildings with large windows and flat roofs. Winding paths and roads cut through a dense area of trees, some of which are in bloom with pink and white flowers. Small figures of people are scattered throughout the scene, walking along the paths. The overall style is a soft, painterly illustration with a muted color palette.

梅の礎

BAIKEI INFRASTRUCTURE

新 梅ひろいの景

新 お花見の景

新 循環型風景づくり

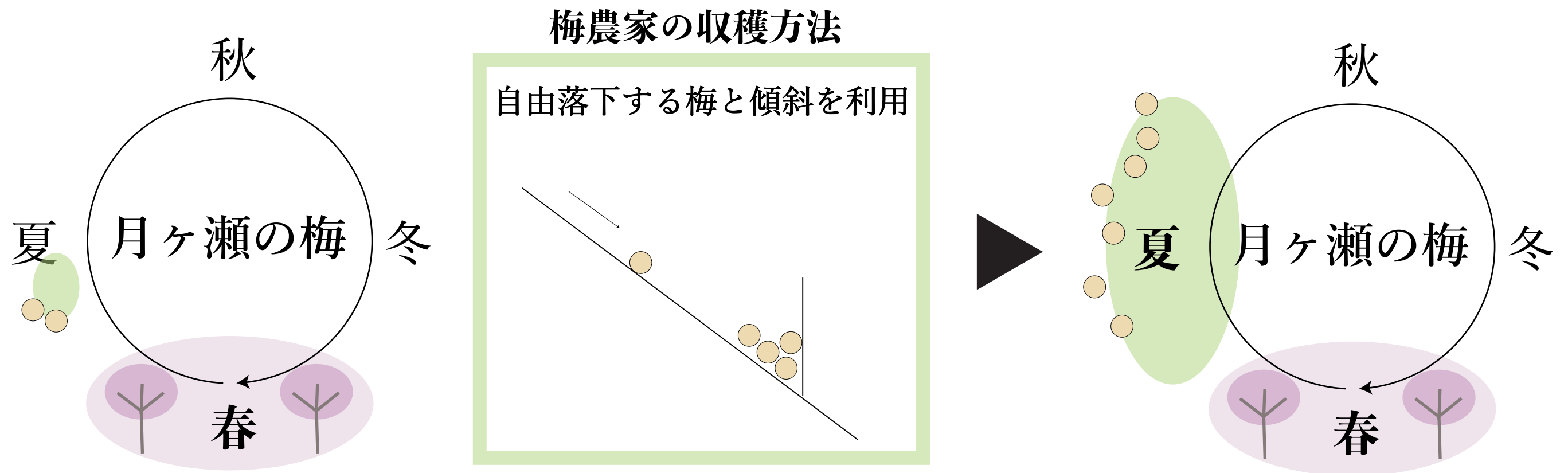


梅農家の収穫方法

梅の礎

BAIKEI INFRASTRUCTURE

①梅と人との接点を増幅すること：地形を生かした収穫

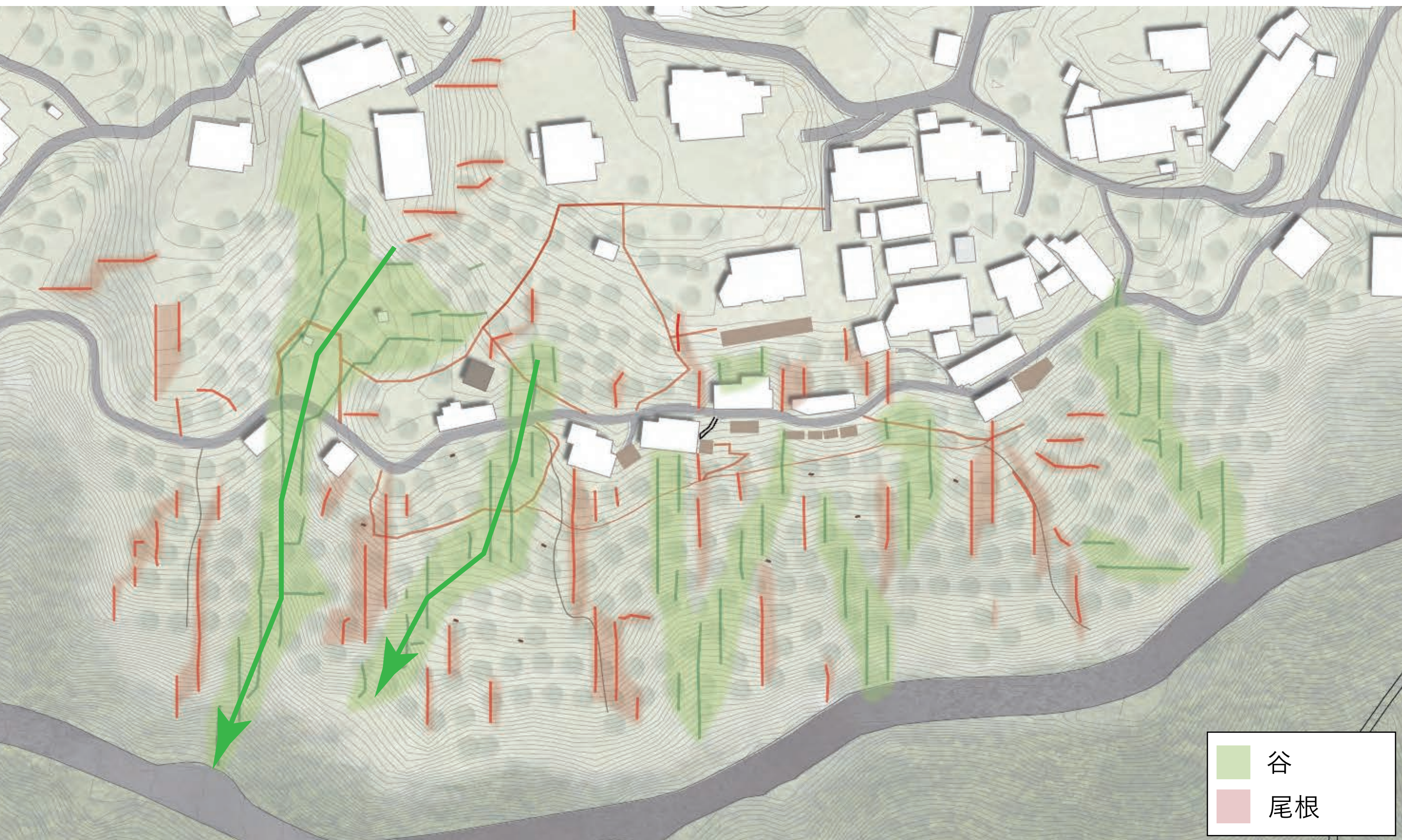


①地形を生かした収穫



現況平面図

①地形を生かした収穫



土地の起伏を分析

①地形を生かした収穫



収穫点の挿入

①地形を生かした収穫

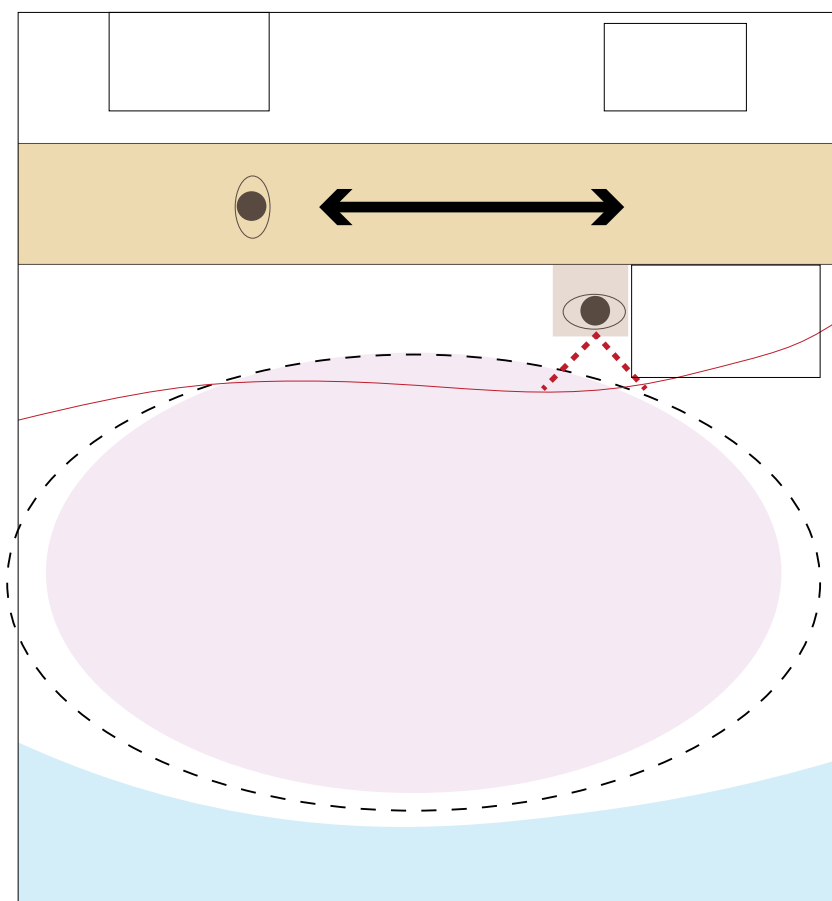


礎の小道（作業動線）の挿入

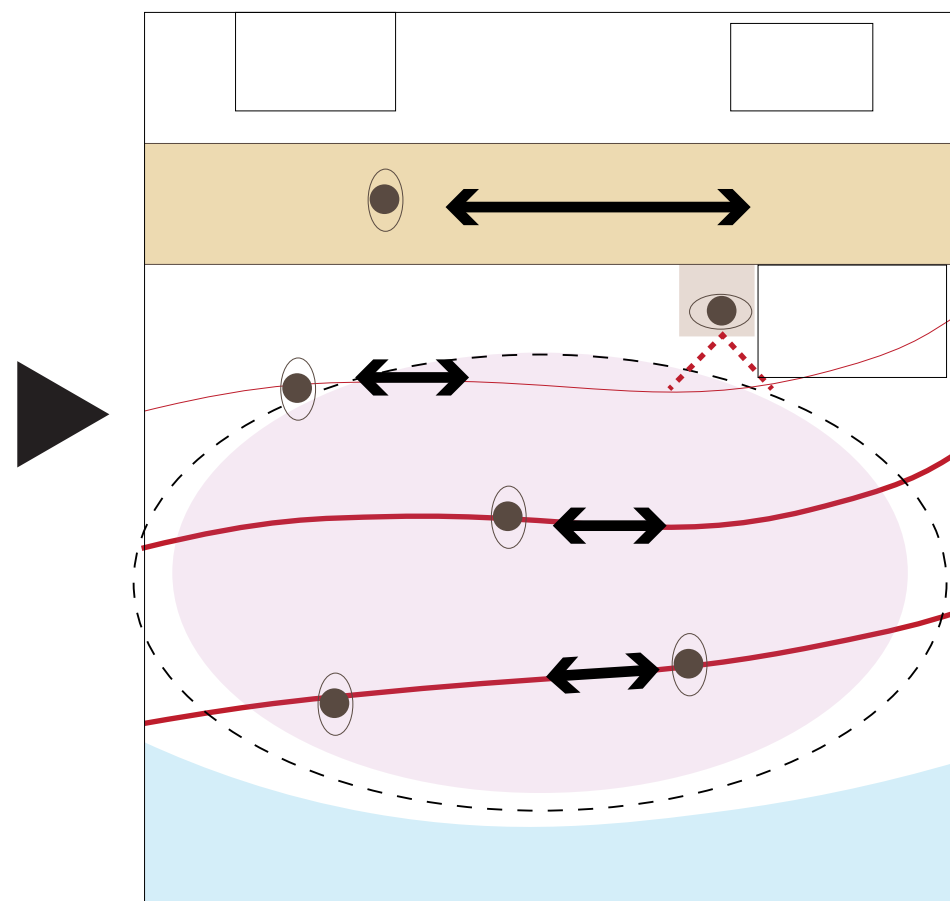
梅の礎

BAIKEI INFRASTRUCTURE

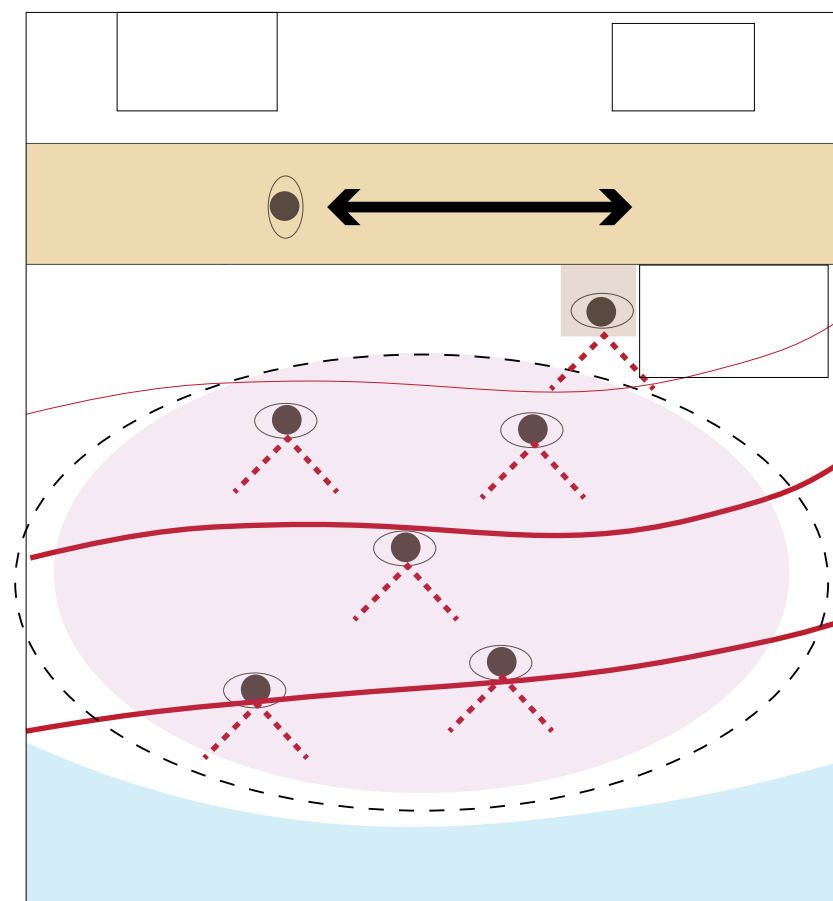
【現況：局地的な視点場】



【作業動線の挿入】



【作業動線が溪谷への視点場に】



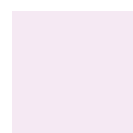
— 礎の小道



既存の道



既存店舗



梅林

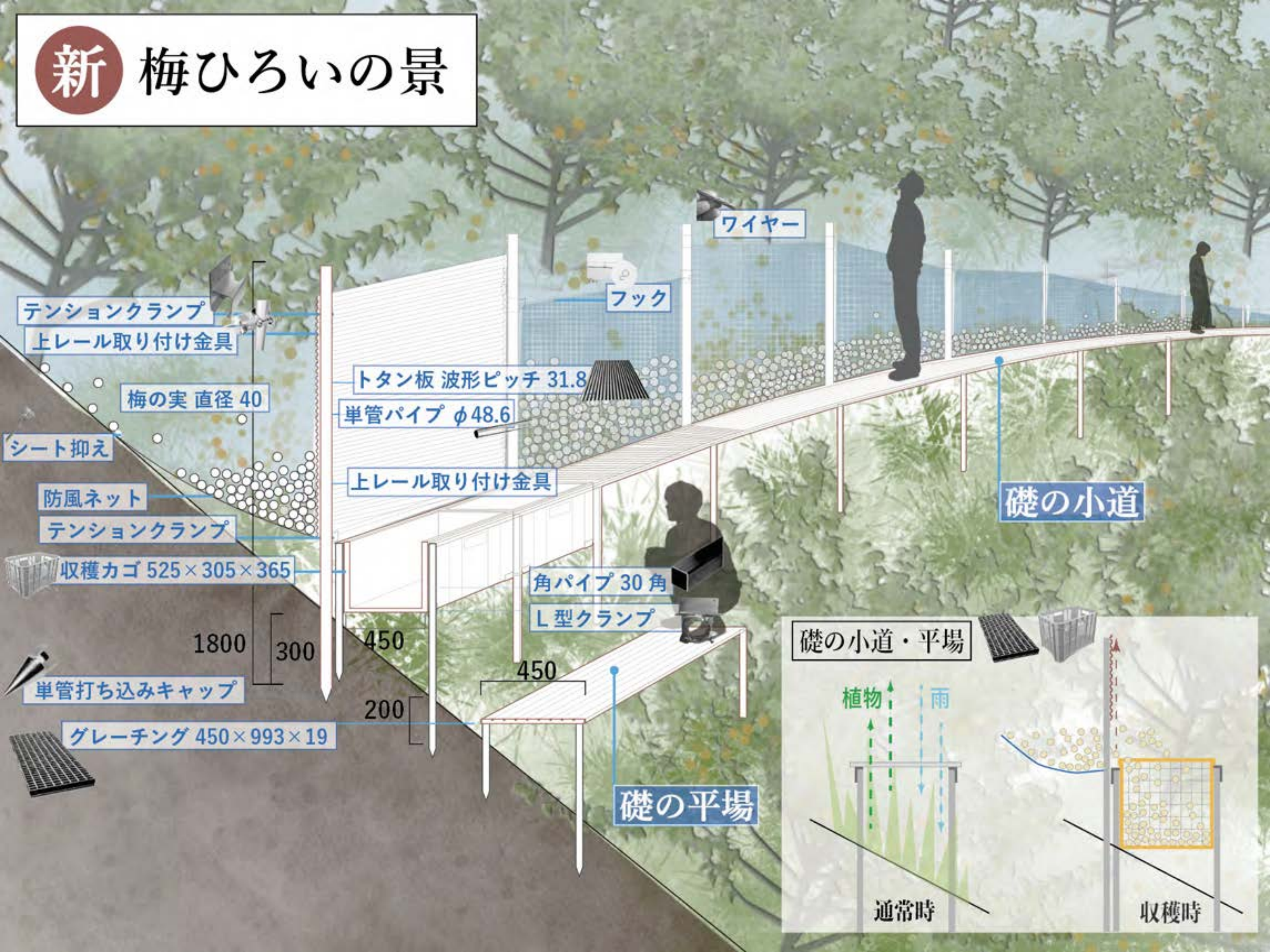


既存テラス

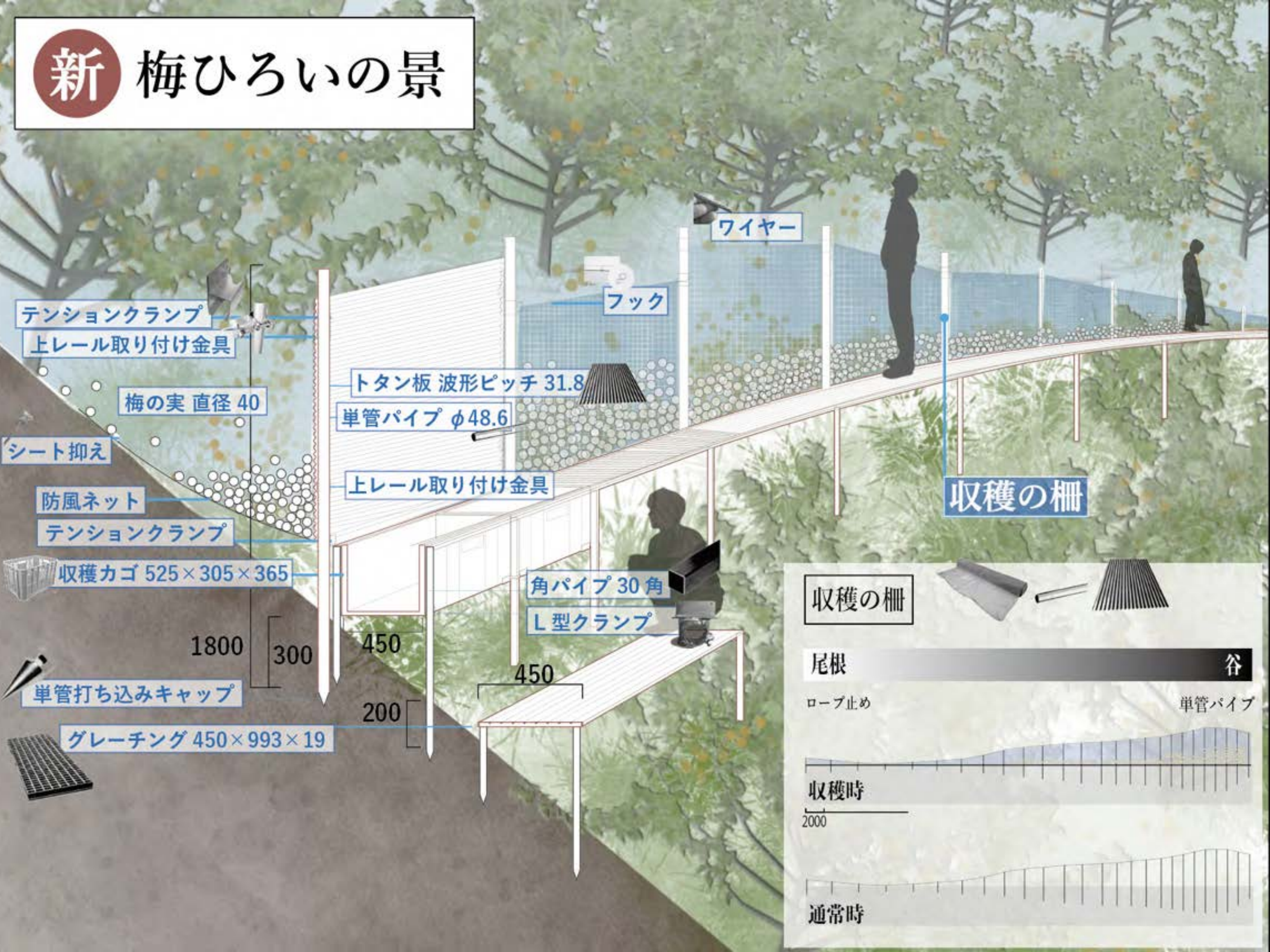


名張川

新 梅ひろいの景



新 梅ひろいの景



収穫の柵

収穫の柵

尾根

谷

ロープ止め

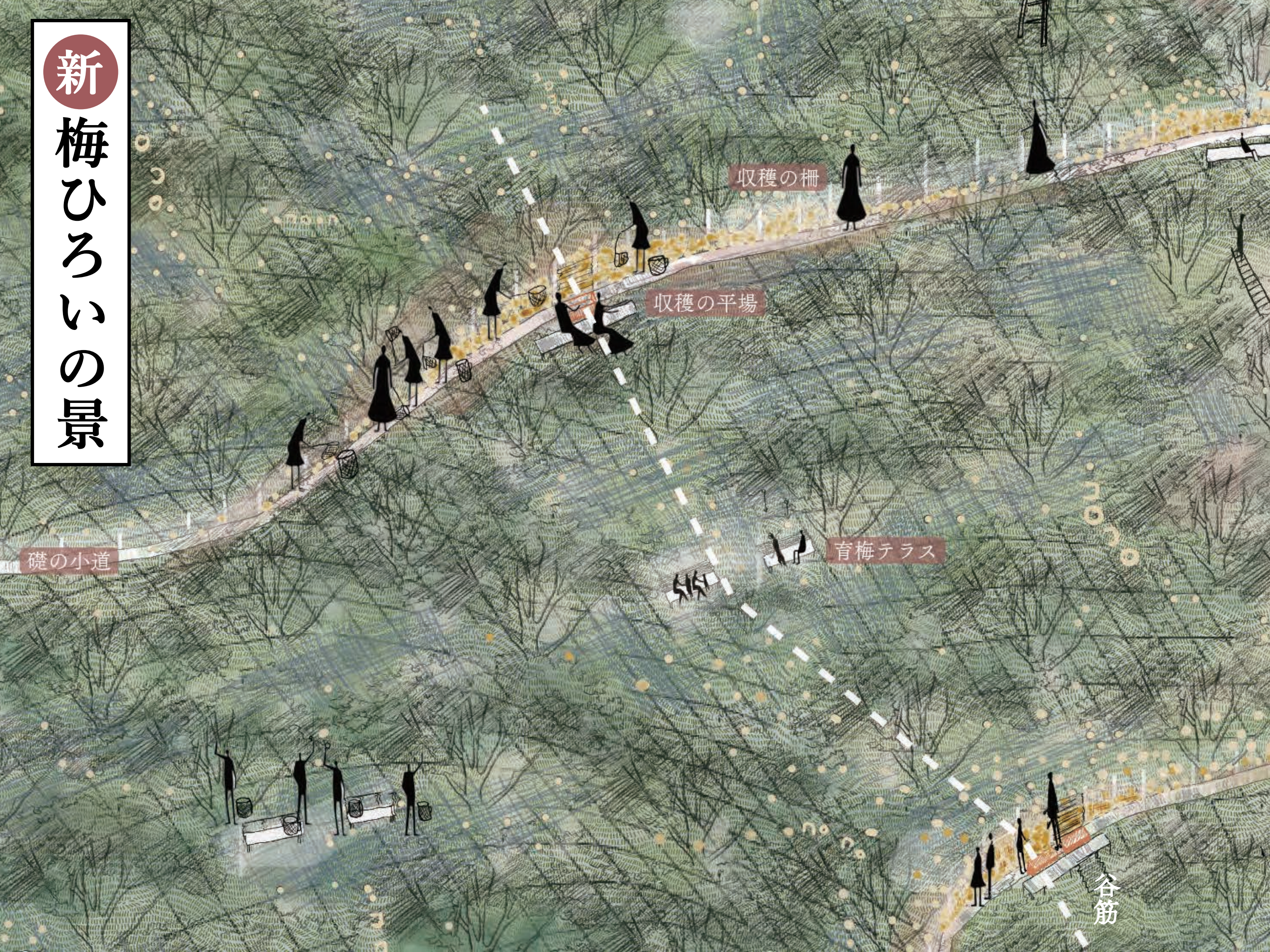
単管パイプ

収穫時

2000

通常時

新 梅ひろいの景



収穫の柵

収穫の平場

育梅テラス

礎の小道

谷筋

An aerial illustration of a park or urban landscape. In the upper left, there are three modern, white, rectangular buildings with large windows. The surrounding area is filled with numerous trees, many of which are in bloom with pink and white blossoms, likely cherry blossoms. A winding path or road cuts through the landscape, and several small figures of people are scattered throughout, suggesting a public space. The overall style is a soft, painterly illustration.

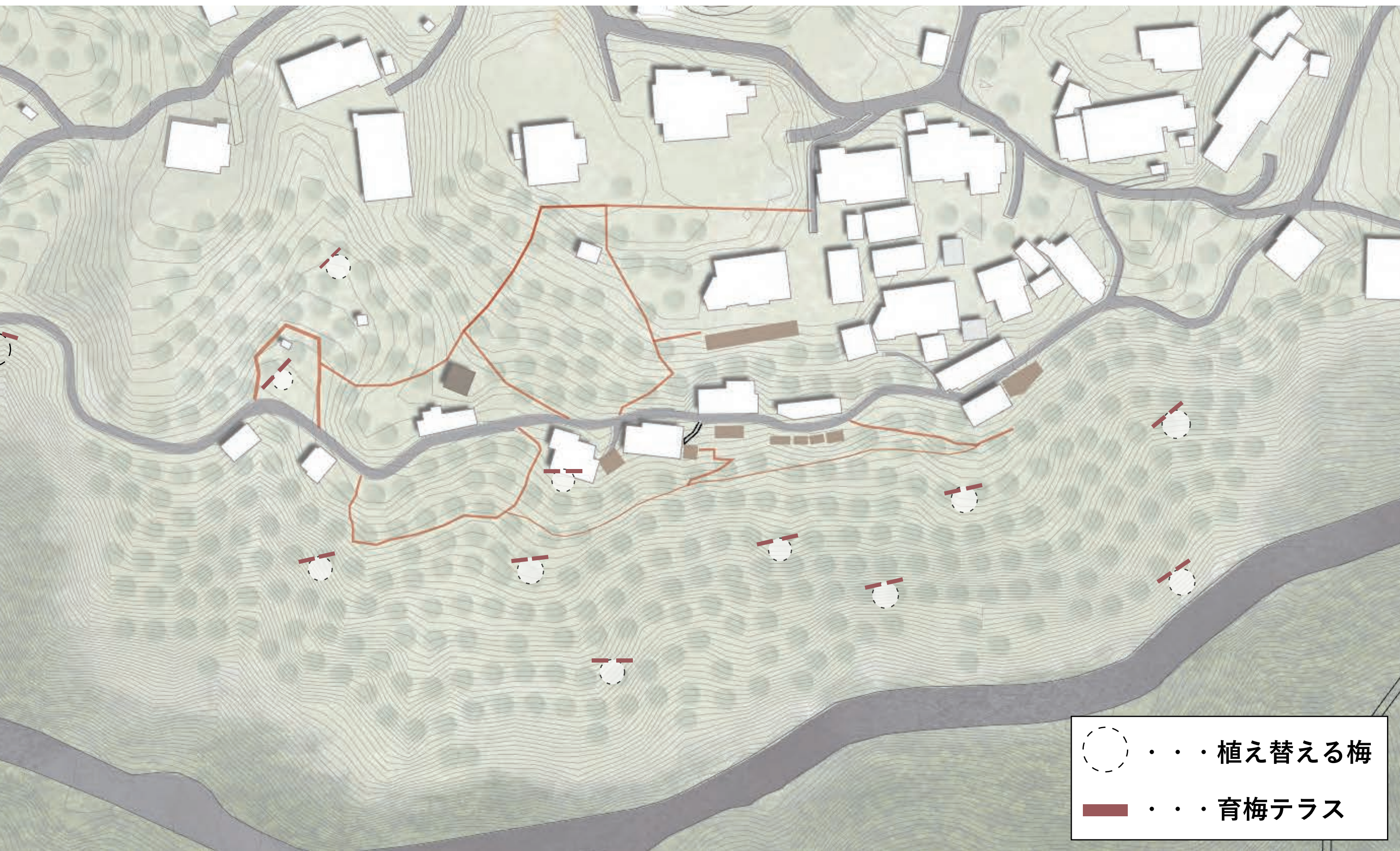
梅の礎

BAIKEI INFRASTRUCTURE

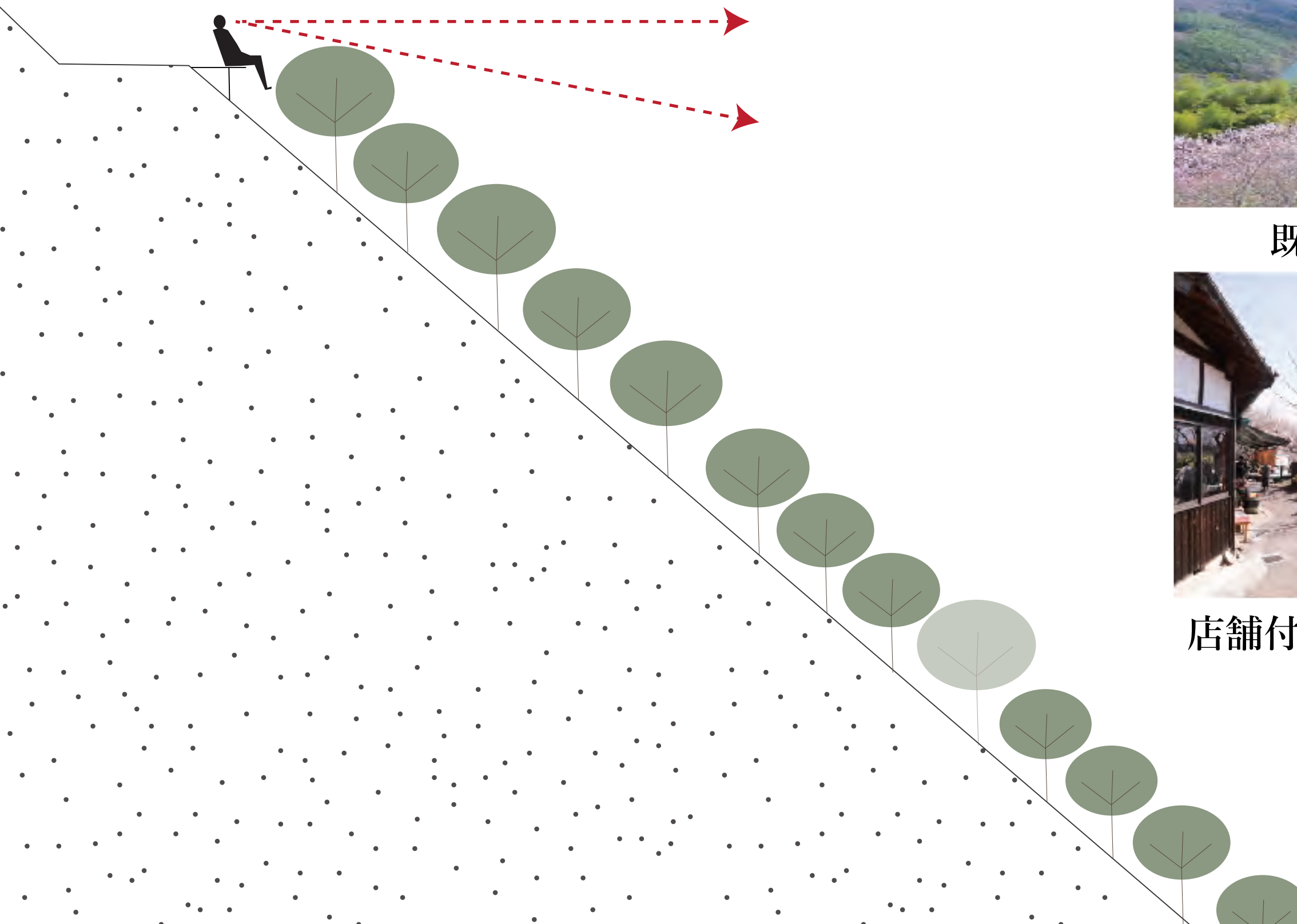
新 梅ひろいの景

新 お花見の景

新 循環型風景づくり



【現況：局地的な視点場】



既存の道のみ



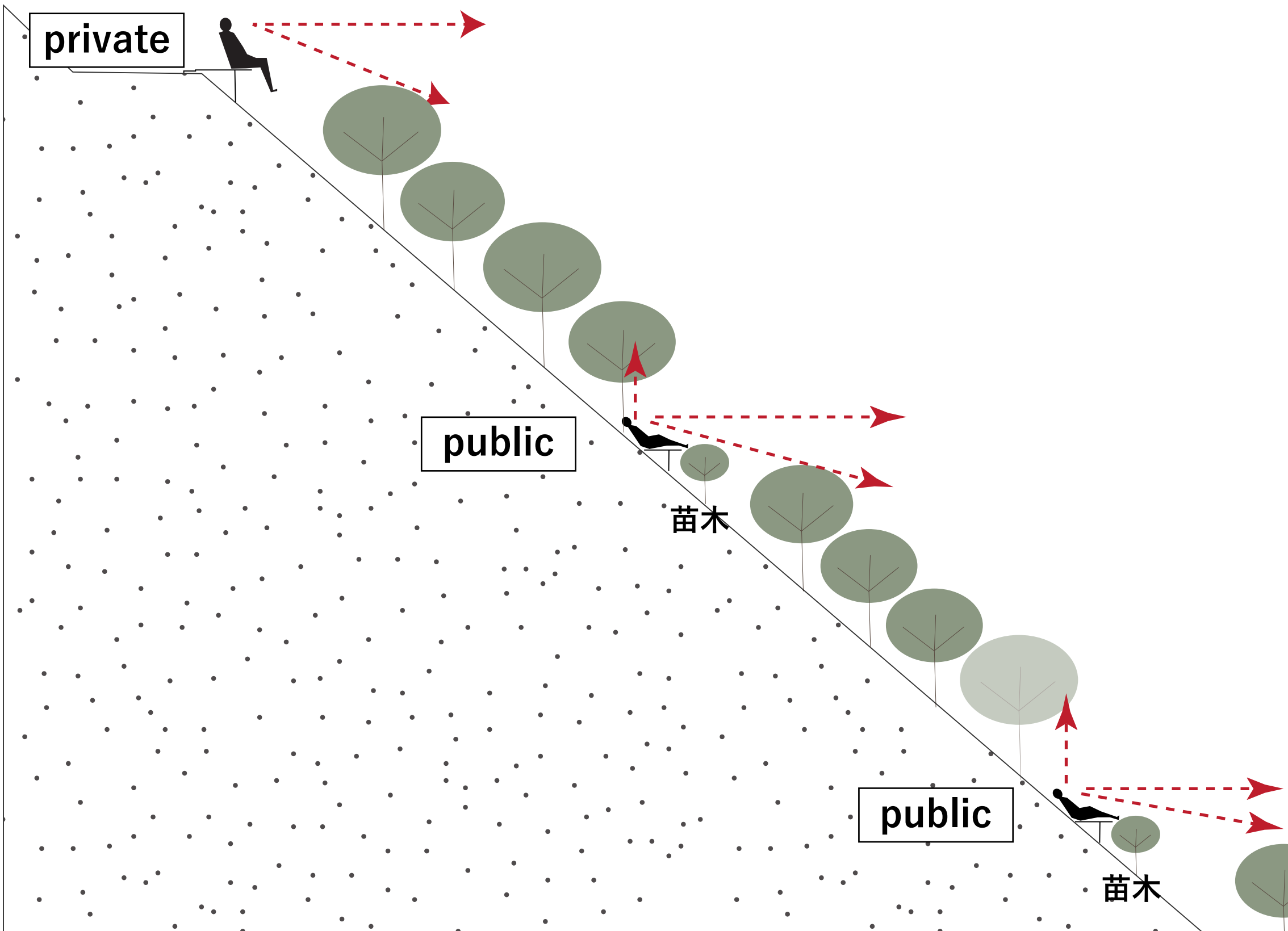
店舗付属のテラスのみ

private

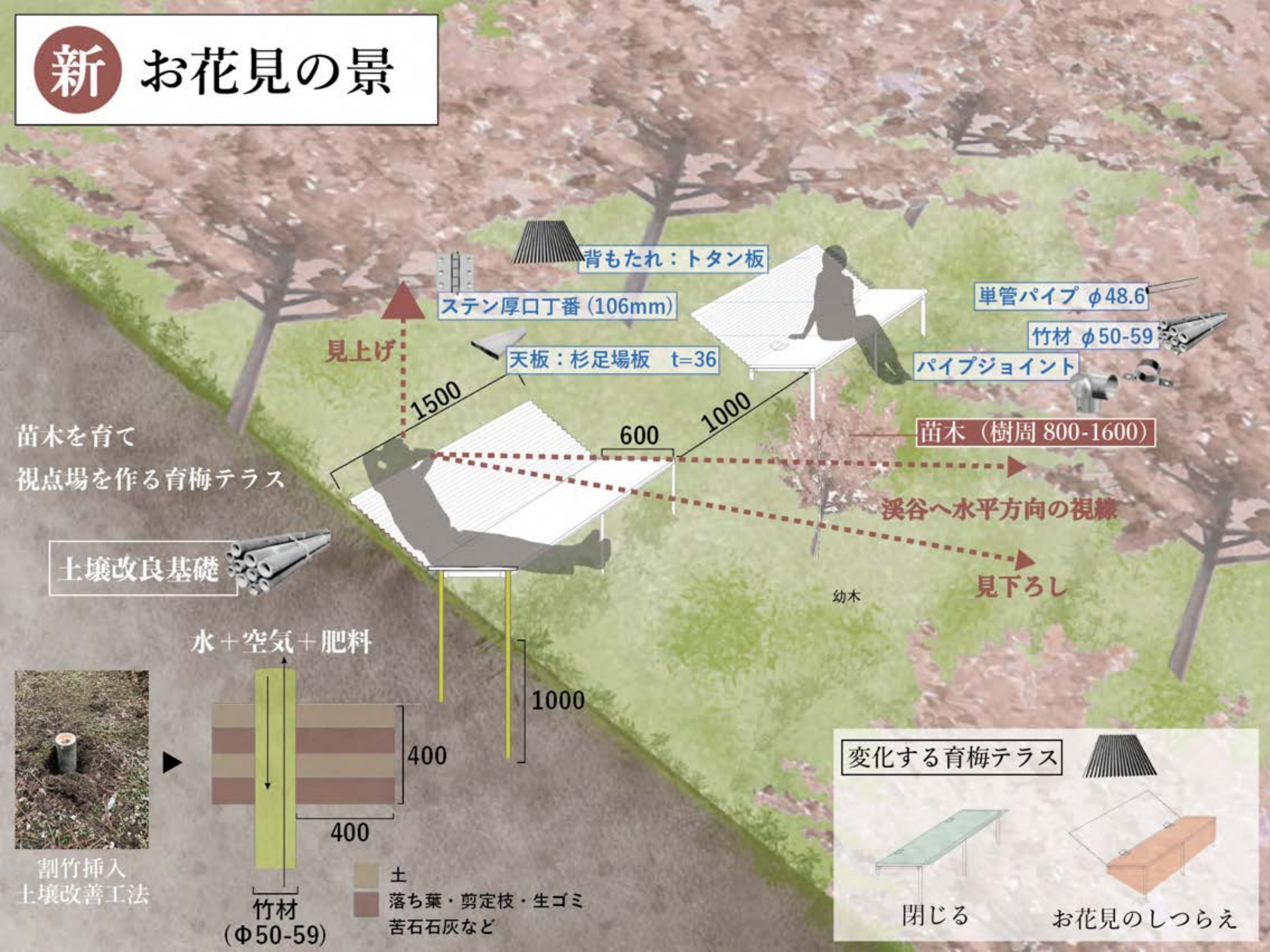
梅の礎

BAIKEI INFRASTRUCTURE

【提案：拡張する視点場】



新 お花見の景



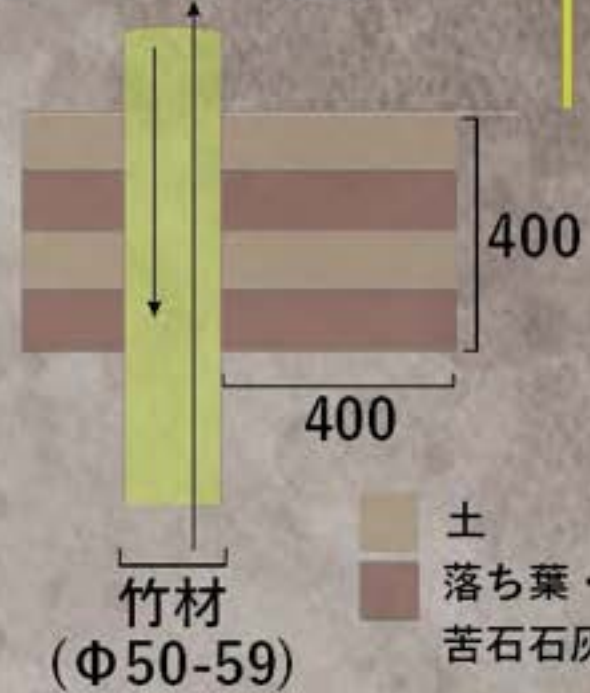
苗木を育て
視点場を作る育梅テラス

土壌改良基礎



割竹挿入
土壌改善工法

水+空気+肥料

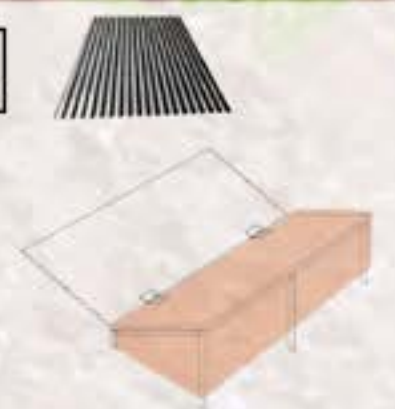


土
落ち葉・剪定枝・生ゴミ
苦石石灰など

変化する育梅テラス



閉じる



お花見のしつらえ

新 お花見の景



2024

移植した広場に場ができる
/幼木の植樹



2026

幼木の成長



2028

成長後テラスは
次の移植箇所へ移動



梅の礎

BAIKEI INFRASTRUCTURE

新 梅ひろいの景

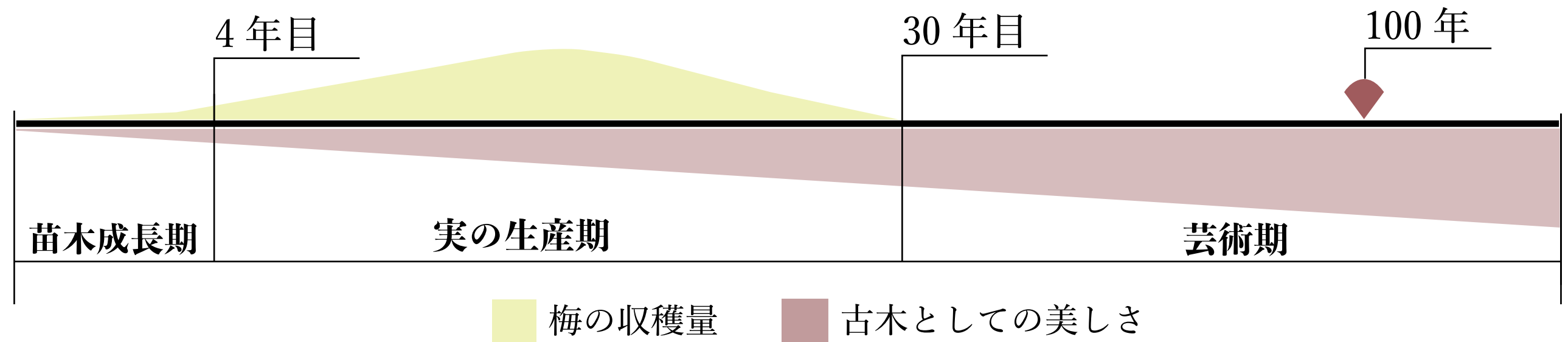
新 お花見の景

新 循環型風景づくり

梅の礎

BAIKEI INFRASTRUCTURE

<梅の一生>



<4 年目 -30 年目>

実の収穫量が多く農業に適した時期



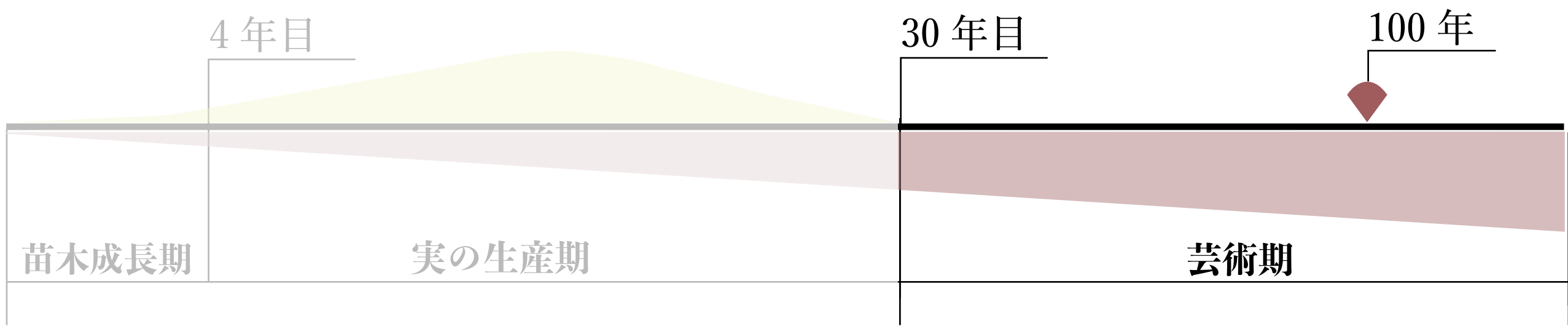
樹齢 100 年ほどで鉄幹へと成長する

鉄幹：老梅の幹の美称

梅の礎

BAIKEI INFRASTRUCTURE

< 現況 >



月ヶ瀬梅林の梅



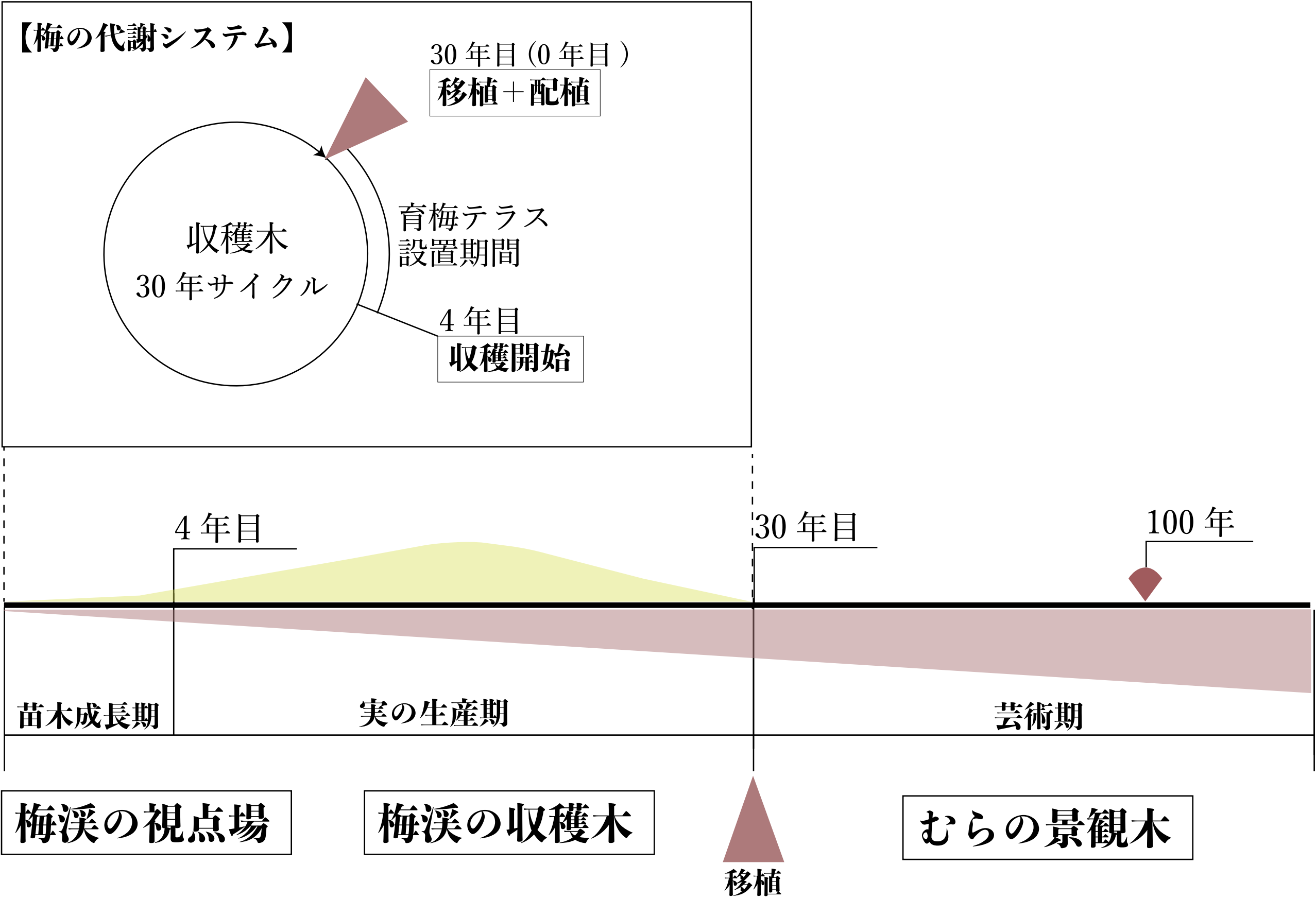
梅の収穫量

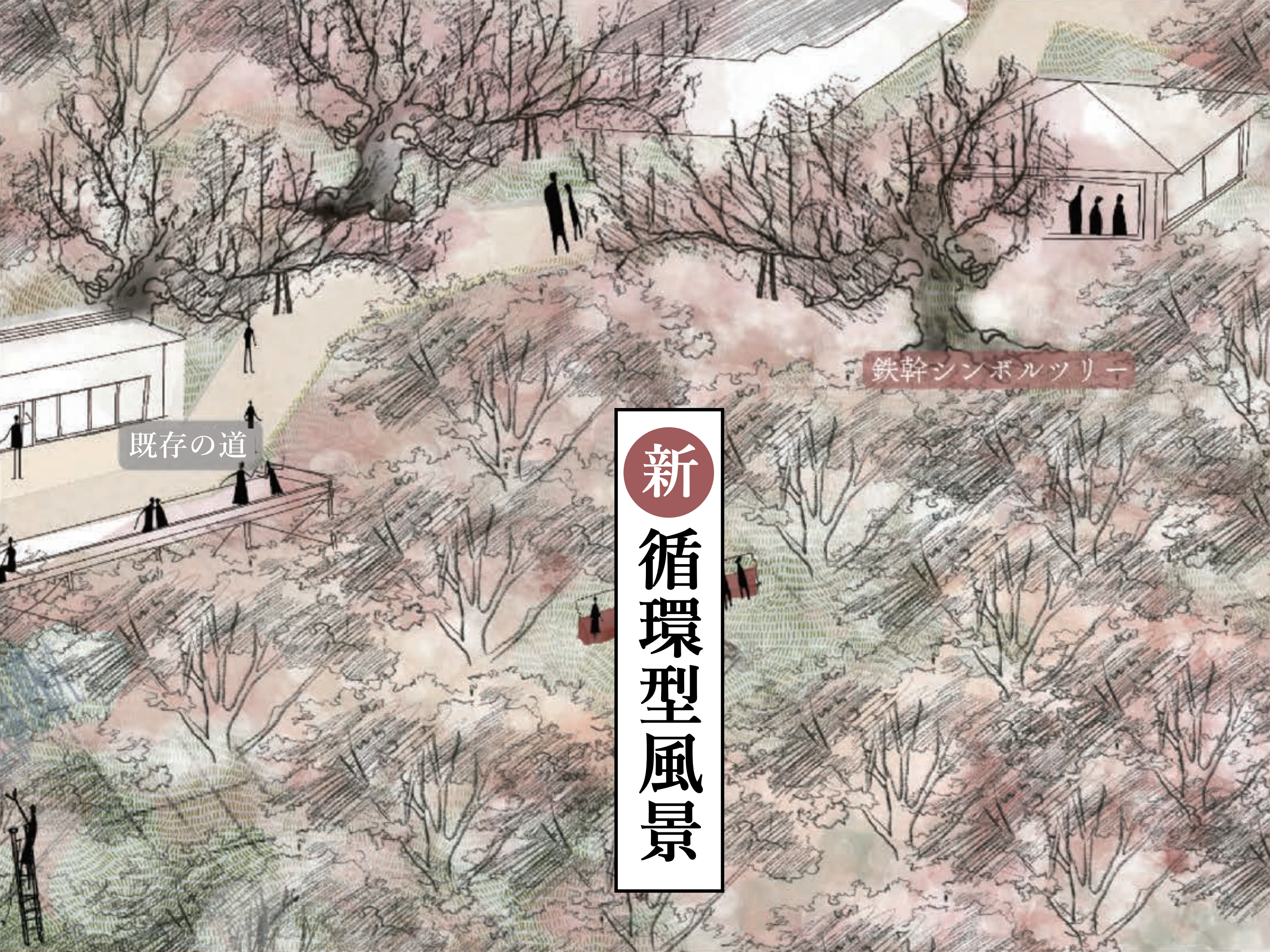


古木としての美しさ

梅の礎

BAIKEI INFRASTRUCTURE





既存の道

鉄幹シンボルツリー

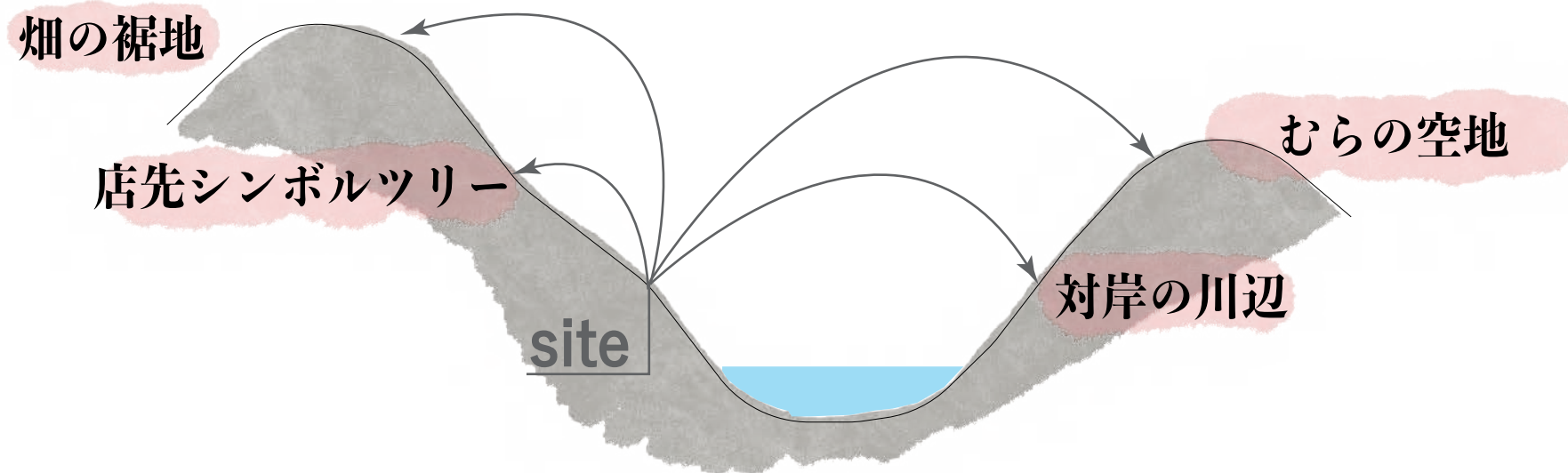
新
循環型風景

梅の礎

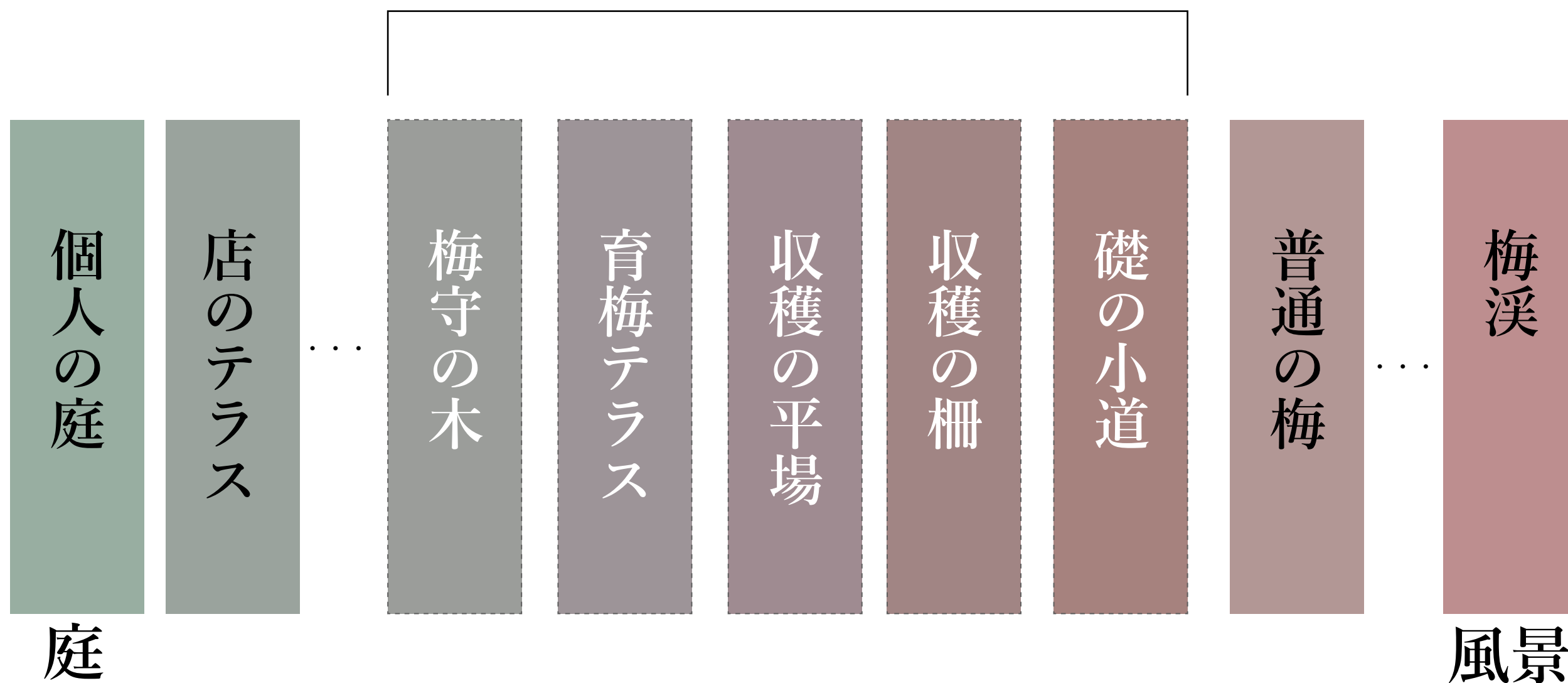
BAIKEI INFRASTRUCTURE

新 循環型風景づくり

『月ヶ瀬といえば梅』というアイデンティティを育む



暮らしと風景をつなぐ梅の礎



梅の礎

うめ

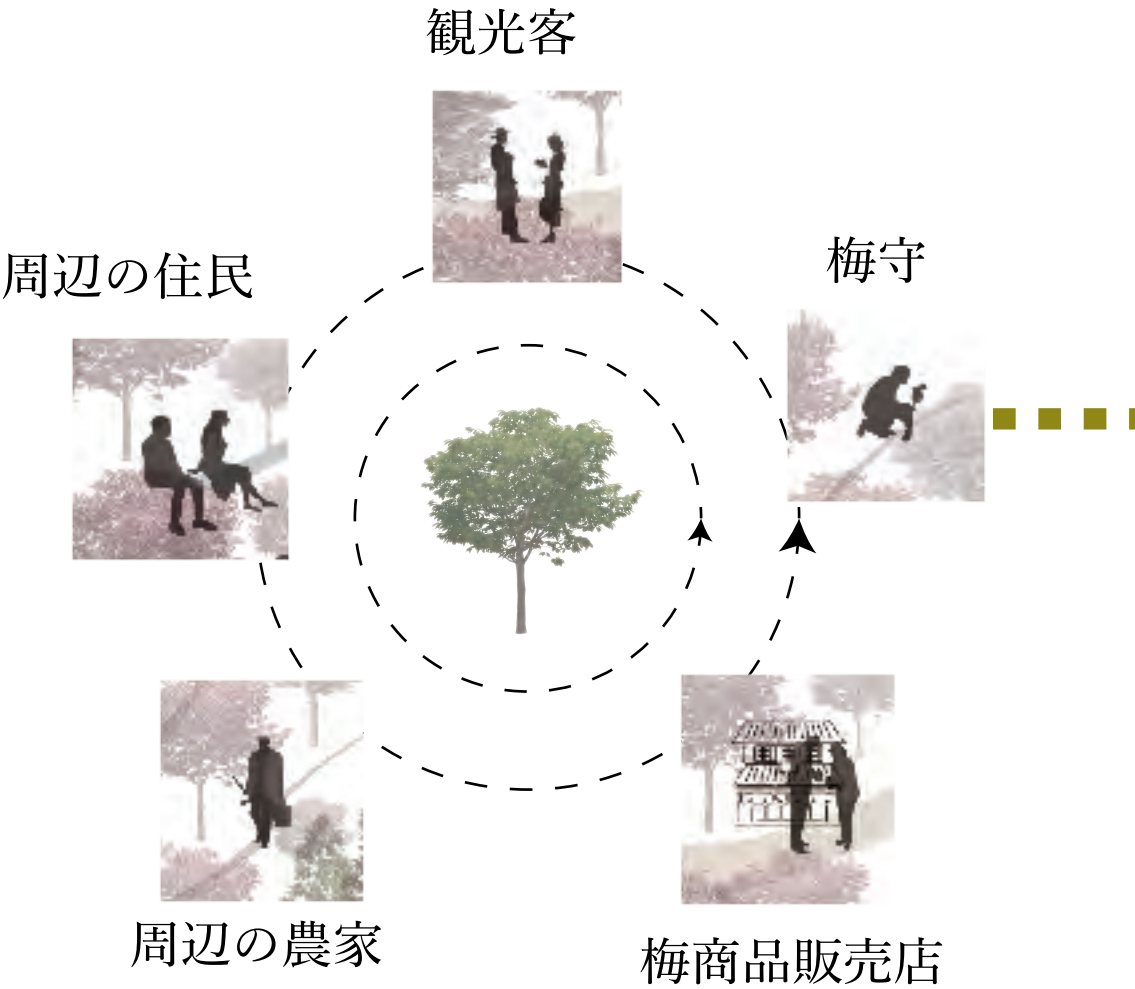
いしづえ

BAIKEI INFRASTRUCTURE

月ヶ瀬梅溪は新たな礎により、
『むらの大きな庭』として
人々の愛着によって手入れされ
この土地に生き続けます。

補足資料

梅と人の関係の広がり

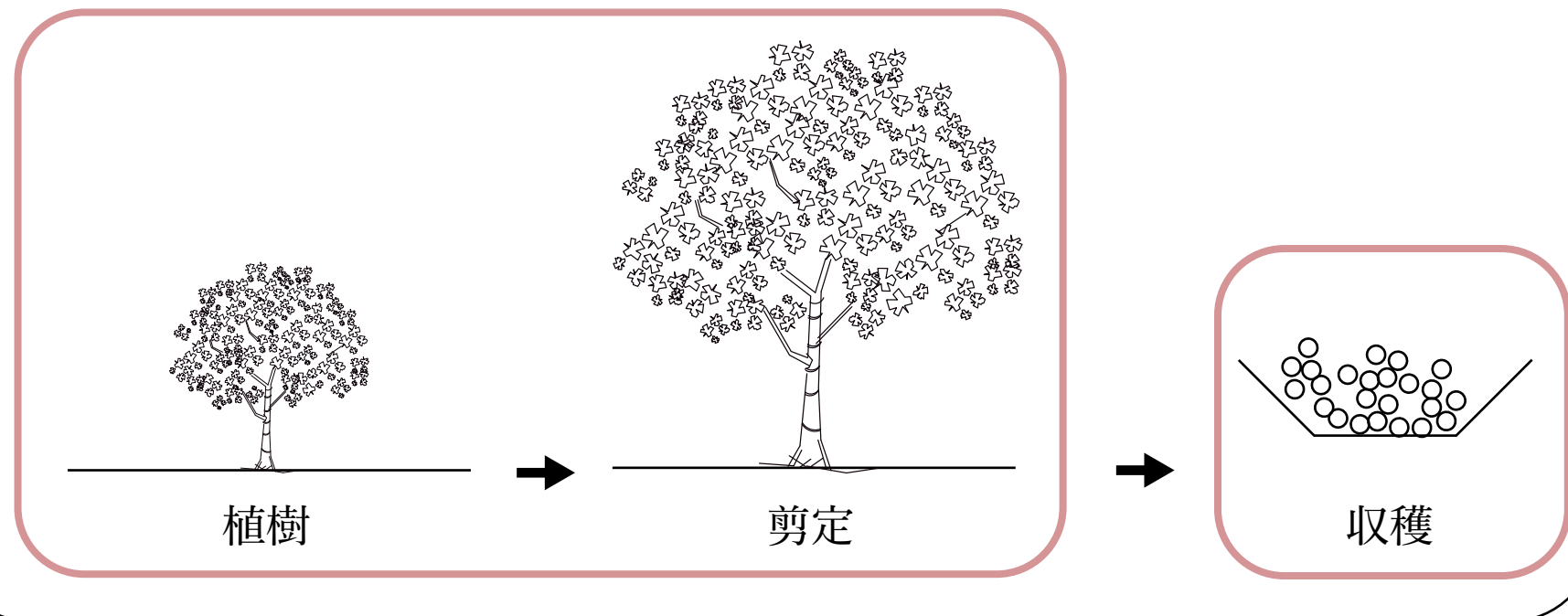


「梅守の一年」	2-3 月	6-7 月		11-1 月
	お花見	青梅狩り	実ひろい	剪定

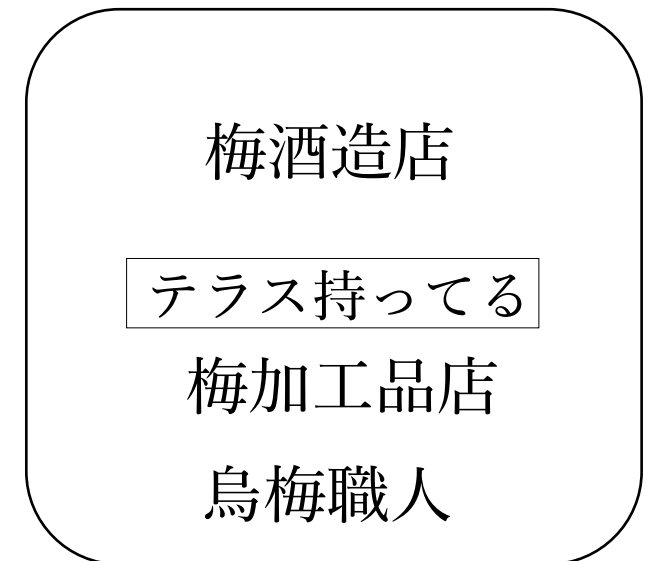
👤 月ヶ瀬梅溪保勝会（月ヶ瀬全住民が今もなお会員）

👤 地元の店

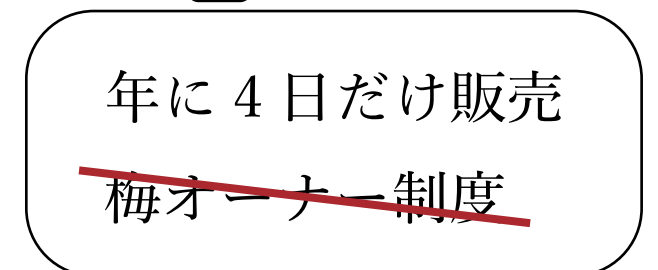
- ・ 1900 年より発足
- ・ 名勝指定部分の敷地を県の委託業務として管理



販売



👤 観光客



収益を維持管理費用に

梅のオーナー制度・・・梅一本につき加入し、梅のみをとる体験ができる。

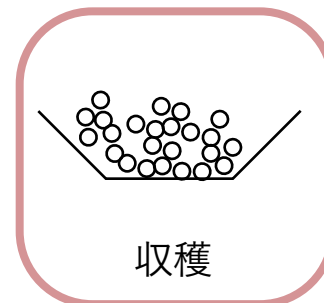
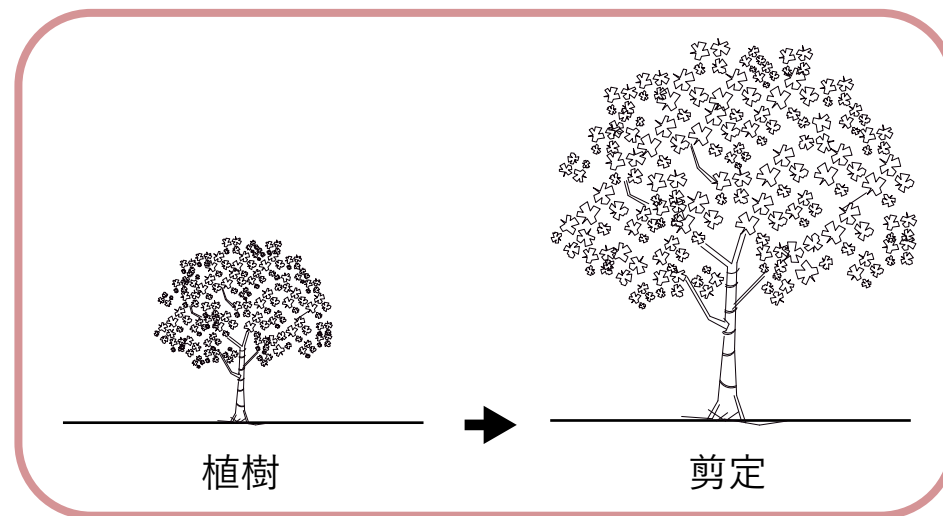
H18-28 年まで京都や奈良・大阪・三重など多方面から人気を博していた。

梅のみの収穫量減，傾斜地でオーナー制度可能な梅が減少し廃止された。

月ヶ瀬保勝会の現状

👤 月ヶ瀬梅溪保勝会（月ヶ瀬全住民が今もなお会員）

- ・ 1900 年より発足
- ・ 名勝指定部分の敷地を県の委託業務として管理



販売
→

👤 地元の店

梅酒造店

テラス持ってる

梅加工品店

烏梅職人

👤 観光客

年に 4 日だけ販売

~~梅オーナー制度~~

←

収益を維持管理費用に

課題： ①斜面地の険しい地形 / 高齢化により困難

②年々老木の増加により収穫量減少

人の高齢化

梅の高齢化

梅のオーナー制度・・・梅一本につき加入し、梅のみをとる体験ができる。

H18-28 年まで京都や奈良・大阪・三重など多方面から人気を博していた。

梅のみの収穫量減，傾斜地でオーナー制度可能な梅が減少し廃止された。

触景：五感を通した梅の体験

聴覚

トタンに落ちる実

嗅覚

集合する香り

味覚

健康的な梅の実

収穫の柵

モノラック

礎の小道

育梅テ



新 梅ひろいの景

既存小道

礎の小道

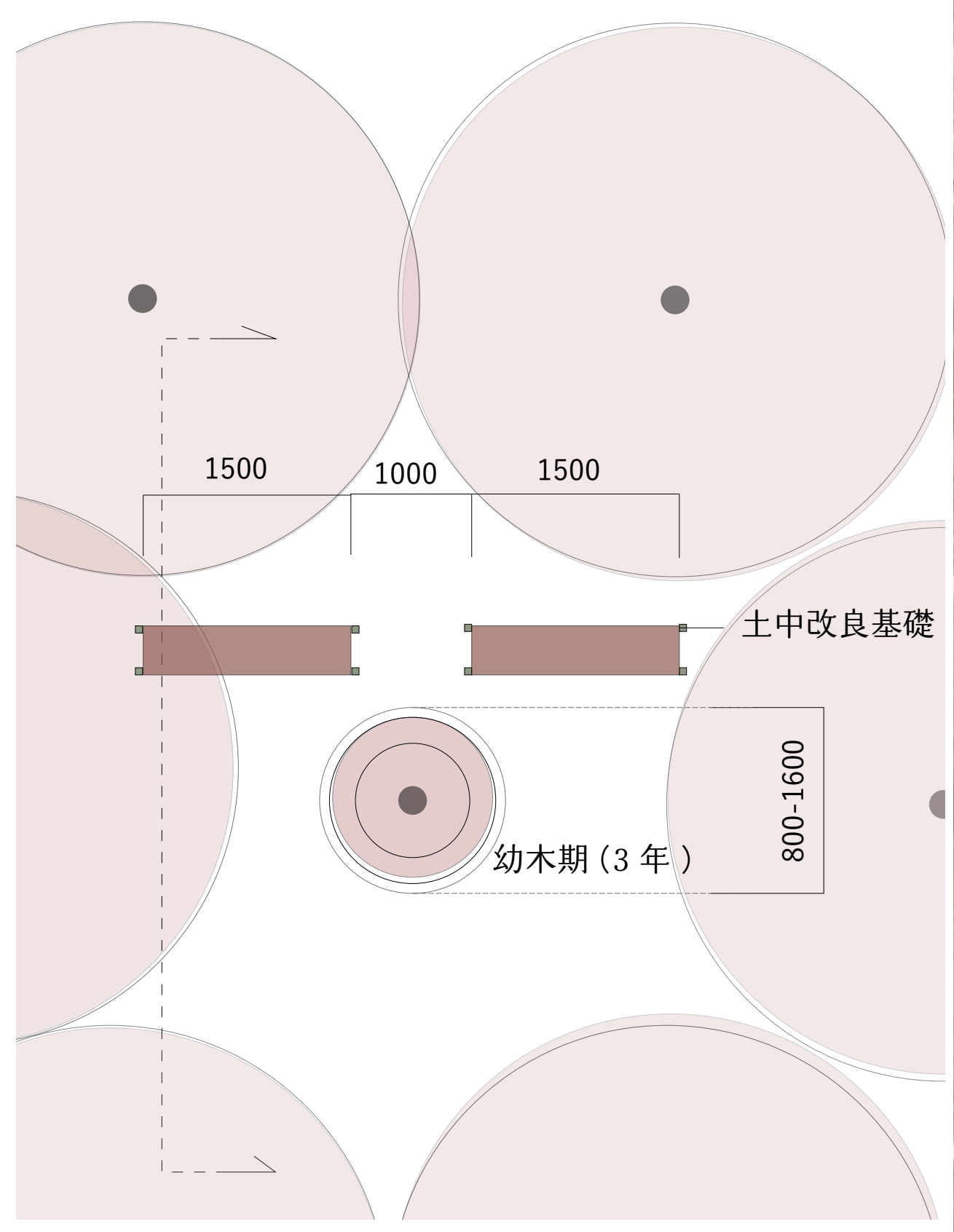
収穫の平場





お花見の景

育梅テラス



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月																			
月ヶ瀬 梅農家	花見まつり 剪定 ----- -----					梅の実とり体験 -----													
	開花・ミツバチ 肥料・除草 生理落下 ネット敷き 水やり 青梅狩り 梅拾い					天日干し			土づくり・剪定										
詳細	剪定 枝は一年乾燥させて碎き（ウッドチップ）幼木の周りに敷き詰めて土に還す。					除草 乗用草刈機を使う					梅酢から引き上げ天日干し								
																			
	ミツバチ 養蜂家から借りたミツバチの箱が農園に置いてある。越冬し花が終わる頃に別の場所へ移動する。										土づくり 剪定枝でしがらみを作り、土壌を改善させる								
	雨が降らなかったら水をやる →斜面地の利用ができる					生理落下 樹がバランスをとるために自分から実を落とす。落ちた実は土に還る。若い樹は手作業で実をとる。					完熟梅拾い（梅干し） 自然落下した梅を回収する。ネットは普段畳んである。集めた梅は梅雨明けまで梅倉で塩漬け								
										 									

表1 月瀬梅林の面積、梅樹数、烏梅生産高の推移

	梅林面積(反)	梅樹数(本)	烏梅生産(駄=32貫)	文献
1868(明治元)年	226.5		821	1885(明治18)年「梅林維持願」による(『月ヶ瀬村史』, 975)
1872(明治5)年	226.1		479	同上
1877(明治10)年	225.9		521	同上
1881(明治14)年			360	「大和国町村誌集」による(『月ヶ瀬村史』, 974)
1882(明治15)年	255.8	28,100		「大和国五月川梅景名勝調査書上扣」による(『月ヶ瀬村史』, 430)
1884(明治17)年	217.0		425	1885(明治18)年「梅林維持願」による(『月ヶ瀬村史』, 975)
1895(明治28)年	325.8	25,808	204	『月ヶ瀬村史』980
1922(大正11)年	114.0	16,300		面積は名勝指定面積,本数は「名勝月ヶ瀬:学術調査報告」330
1950(昭和25)年	103.8	3,108		『月ヶ瀬村史』984

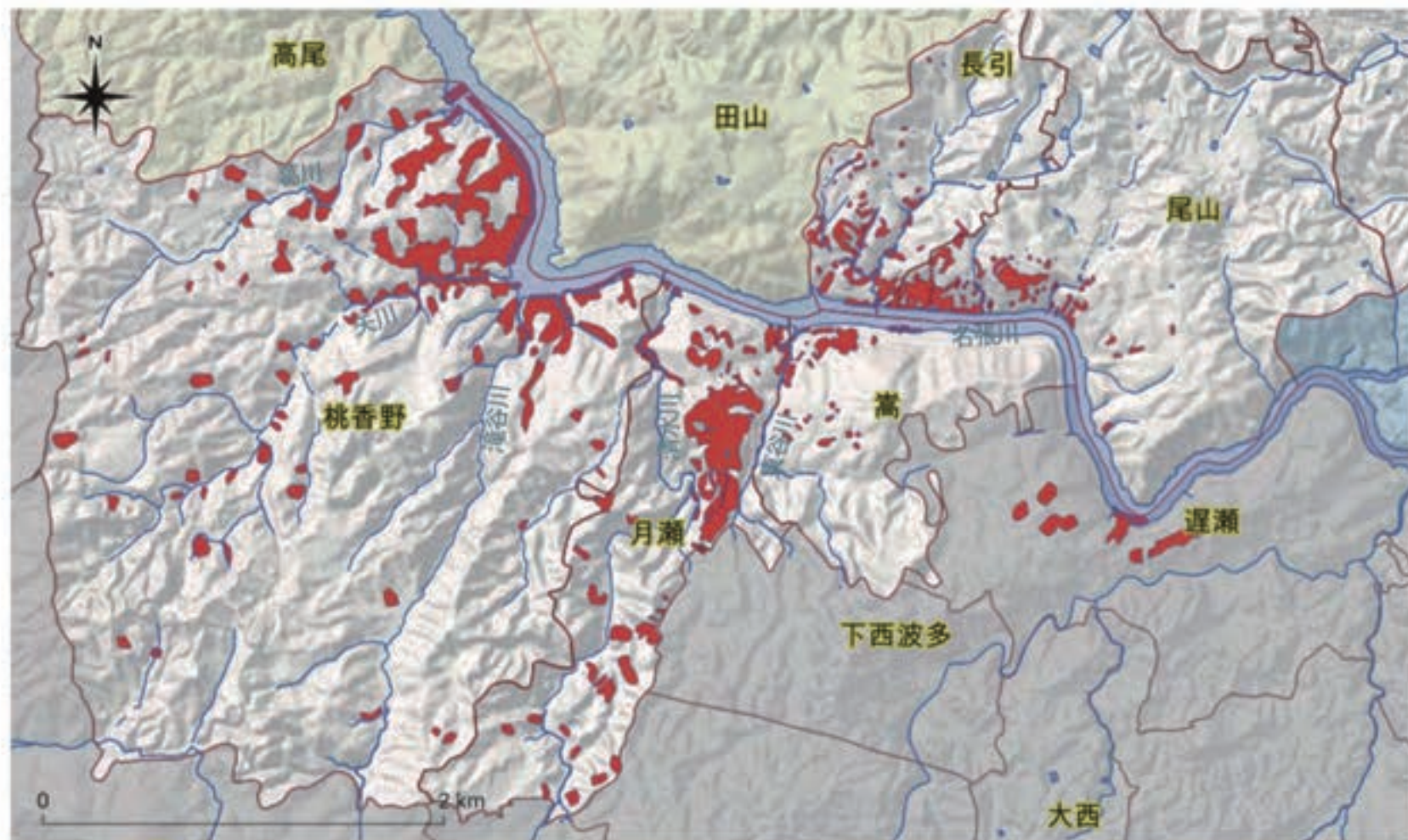


図-2 「梅林略図」における明治初期(1875年頃)の梅樹分布(赤色が梅林、地名は明治初期の村名、境界は農業集落境界データを使用、



図-4 1892(明治25)年測図1/20000地形図「月瀬村」における果園、茶畑、その他の畑地の分布

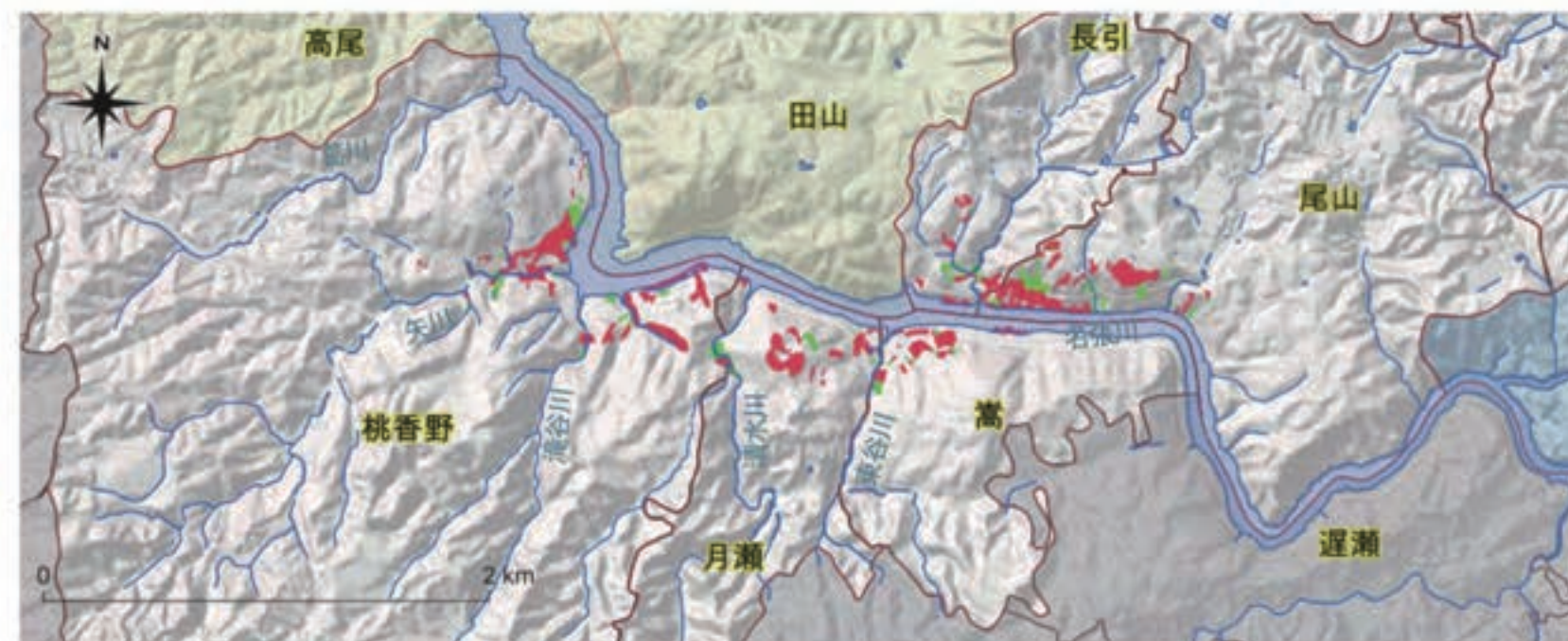


図-3 「名勝指定地籍図」における大正期(1920年頃)の梅樹分布(赤色が梅林、緑色が梅林荒蕪地。他の注釈は図-2と同じ)



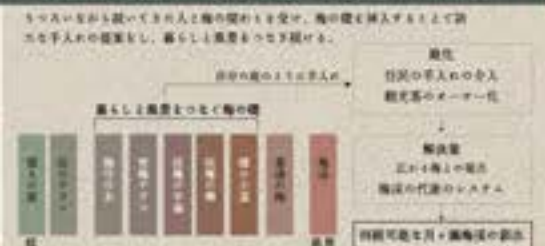
01 場の価値：厚みある風景と住民による下支え



02 減少する月ヶ瀬梅溪



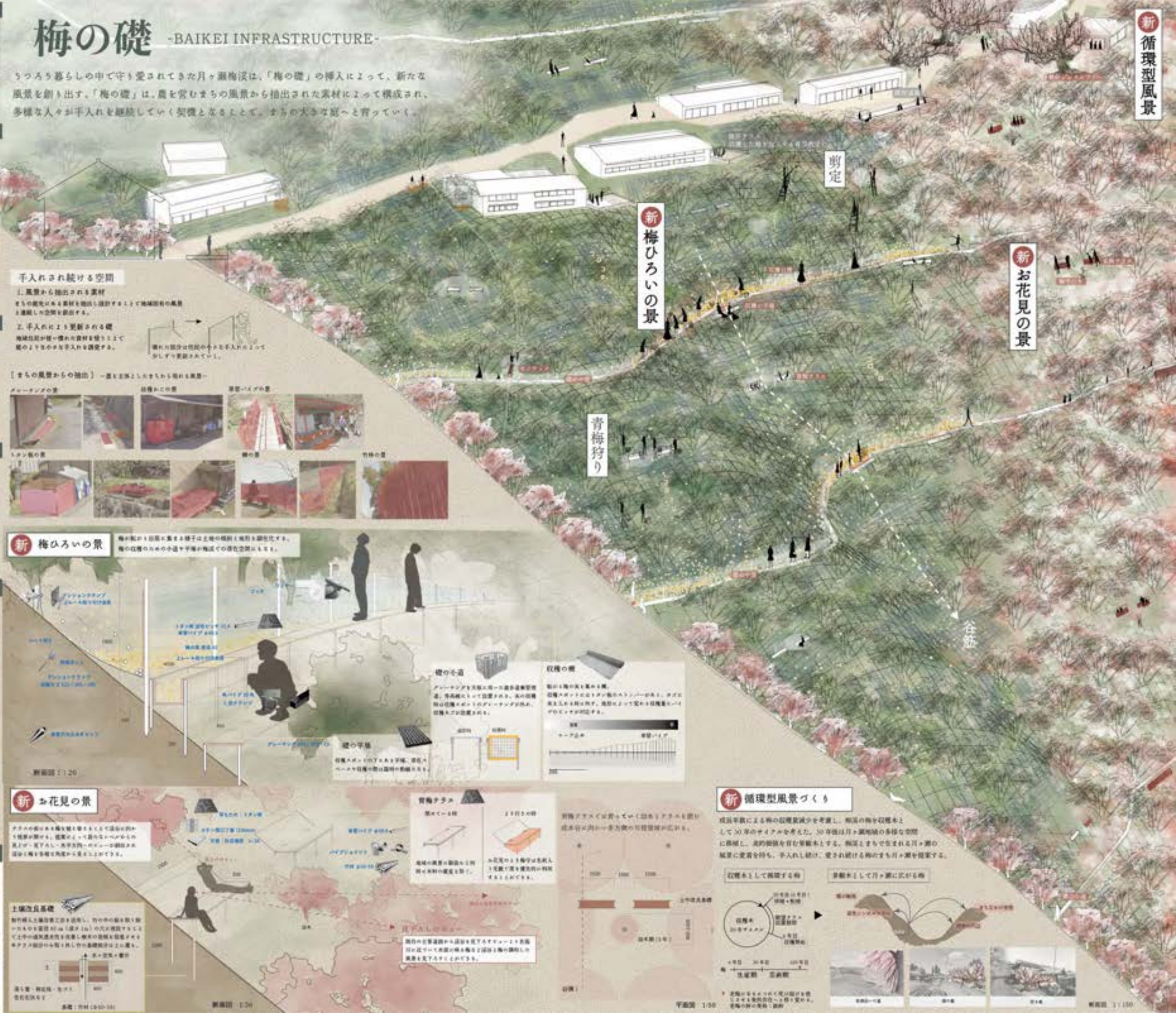
03 再編集：積極的な手入れの介入＝庭化による解決策



04 新たな庭による発展と継承



05 月ヶ瀬梅溪の広がり



梅の礎 -BAIKEI INFRASTRUCTURE-

うつろい暮らしの中で守り愛されてきた月ヶ瀬梅溪は、「梅の礎」の挿入によって、新たな風景を創り出す。「梅の礎」は、風を営むまちの風景から抽出された素材によって構成され、多様な人々が手入れを継続していく契機となることで、まちの大きな庭へと育っていく。

手入れされ続ける空間

- 風景から抽出される素材
まちの歴史にある素材を抽出し設計することで地域固有の風景と連続した空間を創出する。
- 手入れにより更新される礎
地域住民が住み慣れた素材を使うことで、庭のよりよい手入れを誘発する。



新 梅ひろいの景



新 お花見の景



新梅ひろいの景

青梅狩り

剪定

新 お花見の景

新 循環型風景づくり

